

特定原子力施設検査実施要領書
(使用前検査)

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

工事の工程：構造、強度又は漏えいに係る試験をすることが
できる状態になった時
設備の組立てが完了した時
工事の計画に係る工事が完了した時

対象設備：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

要領書番号：原規規収第 1911112 号 01

令和元年 1 2 月

原子力規制委員会

改訂来歴

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一原子力発電所

特定原子力施設検査（使用前検査）

工事の工程： 構造、強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時
設備の組立てが完了した時
工事の計画に係る工事が完了した時

対象設備： 雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

要領書番号： 原規規収第 1911112 号 01

回	年 月 日	改訂箇所、改訂内容及び改訂理由
一	令和元年 12月 5日	制定
		以下余白

目 次

I. 検査目的及び検査項目	1
II. 検査対象設備及び範囲	1
III. 検査場所	2
IV. 実施計画の認可関係	2
V. 検査方法	2
VI. 判定基準	5
VII. 添付資料	6
1. 検査項目表	
2. 寸法検査許容寸法	
3. 使用前検査成績書様式	
4. 関連図書及び詳細手順	
資料 1. 実施計画（抜粋）	
資料 2. 検査範囲図	
資料 3. 耐圧・漏えい検査要領	
資料 4. 通水検査要領	

I. 検査目的及び検査項目

本検査は、東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則（以下「規則」という。）第20条第1項の表第一号、第二号及び第三号の工事の工程に係る検査項目の使用前検査について、福島第一原子力発電所に係る雨水処理設備等のうち雨水移送用貯留設備及び関連設備の工事が認可された実施計画（*1）に従い行われていることを確認するもので、以下の検査（*2）を実施する。

1. 材料検査
2. 寸法検査
3. 外観検査
4. 組立て及び据付け状態を確認する検査（以下「組立・据付検査」という。）
5. 耐圧・漏えい検査
6. 耐圧代替検査
7. 性能検査
 - (1) 運転性能検査
8. 機能検査
 - (1) 通水検査

*1：認可された実施計画とは、原子力事業者等が核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第64条の2第2項の規定に基づき原子力規制委員会に提出し、認可された実施計画

*2：材料検査、寸法検査、外観検査、組立・据付検査、耐圧・漏えい検査及び耐圧代替検査は規則第20条第1項の表第一号の工事の工程に係る検査項目である。また、運転性能検査は規則第20条第1項の表第二号の工事の工程に係る検査項目であり、通水検査は表第三号の工事の工程に係る検査項目である。

II. 検査対象設備及び範囲

検査の対象は、実施計画に記載された以下の設備とする。

詳細は、添付資料－4「関連図書及び詳細手順」資料1.「実施計画（抜粋）」及び資料2.「検査範囲図」を参照のこと。

検査対象設備・検査範囲	数量等
雨水処理設備等	
雨水移送用貯留設備	
雨水回収タンク	5基
関連設備	
集水ピット抜出ポンプ（完成品）	20台
雨水回収タンク移送ポンプ（完成品）	3台
中継タンク直送ポンプ（完成品）	1台
主要配管	
雨水移送	一式
集水ピット抜出ポンプから 雨水回収タンクまたは中継タンク入口ヘッダーまでの一部	

雨水回収タンクから 集合ヘッダーまたは中継タンク入口ヘッダーまでの一部 集合ヘッダーから 中継タンクまたは雨水受入タンクまでの一部 中継タンクから 集合ヘッダーまでの一部	
--	--

Ⅲ. 検査場所

申請書「検査を受けようとする場所」の欄に記載のとおり。

Ⅳ. 実施計画の認可関係

認可番号 (認可年月日)	認可機器
原規福発第 1308142 号 (平成 25 年 8 月 14 日) 原規規発第 1907083 号 (令和元年 7 月 8 日)	雨水処理設備等 雨水移送用貯留設備 関連設備

Ⅴ. 検査方法

実施計画に基づく検査の方法は以下のとおりである。

各機器に対する検査項目を添付資料－1「検査項目表」に示す。

共通事項

(1) 使用前検査申請書の確認

- a. 本検査に係る使用前検査申請書(変更申請も含む。)が準備されていることを確認する。
- b. 検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであることを確認する。

1. 材料検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。

2) 検査手順

実施計画に記載されている材料が使用されていることを申請者の品質記録により確認する。

2. 寸法検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。(雨水回収タンク)

2) 検査手順

実施計画に記載されている主要寸法を申請者の品質記録により確認する。
許容寸法は添付資料－2「寸法検査許容寸法」を参照のこと。

3. 外観検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。

2) 検査手順

検査対象の外観について、健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないことを各機器に対し1基以上、主要配管にあつては1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

4. 組立・据付検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 耐圧・漏えい検査で漏えい確認できないフランジ部については適切に締め付けられていることを確認する。
- d. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。(雨水回収タンク)

2) 検査手順

- a. 検査対象の組立て状態並びに据付け位置及び据付け状態を各機器に対し1基以上、主要配管にあつては1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。
- b. タンク基礎の不陸を申請者の品質記録により確認する。
- c. タンクの地盤支持力の確認として支持力試験におけるタンク基礎底面地盤の支持力を申請者の品質記録により確認する。
詳細は、添付資料－4「関連図書及び詳細手順」資料1.「実施計画(抜粋)」及び資料2.「検査範囲図」を参照のこと。

5. 耐圧・漏えい検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。
- d. 系統構成が適切であることを確認する。

2) 検査手順

耐圧検査圧力で所定時間保持した後、検査圧力に耐え、変形等の異常が生じていないこと、及び耐圧検査終了後、耐圧部からの漏えいの有無を1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

詳細は添付資料－４「関連図書及び詳細手順」資料３、「耐圧・漏えい検査要領」を参照のこと。

6. 耐圧代替検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。

2) 検査手順

- a. 雨水回収タンクの底板について、局部漏えい検査及び非破壊検査が実施されていることを、申請者の品質記録により確認する。
- b. 局部漏えい検査は、JIS Z 2329 (2002)「発泡漏れ試験方法」に基づき実施する。
- c. 非破壊検査は、日本機械学会「発電用原子力設備規格 溶接規格 (2007)」に基づき、雨水回収タンク J 2、J 3 及び H 6 (I) については磁粉探傷試験を、雨水回収タンク B については超音波探傷試験を実施する。

7. 性能検査

(1) 運転性能検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。

2) 検査手順

集水ピット内部に設置されるポンプについては異音、振動等の異常がないことを、その他のポンプについては異音、異臭、振動、漏えい等の異常がないことを1台以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

8. 機能検査

(1) 通水検査

1) 検査前確認事項

- a. 申請者の品質記録が準備されていることを確認する。
- b. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- c. 系統構成が適切であることを確認する。

2) 検査手順

主要配管に通水できることを1箇所以上立会し、その他については申請者の品質記録により確認する。

詳細は、添付資料－４「関連図書及び詳細手順」資料４、「通水検査要領」を参照のこと。

9. 用途変更に関する確認事項

なお、汚染水処理設備等RO濃縮水貯槽から用途変更された雨水回収タンク（G3西-D7）及び基礎外周堰については、以下のとおり確認を行う。

1) 検査前確認事項

- a. 必要な図面等が準備されていることを確認する。
- b. 実施計画に基づき保全が実施されていることを品質記録により確認する。

2) 検査手順

材料検査、寸法検査、組立・据付検査、耐圧・漏えい検査及び漏えい拡大防止機能検査については、過去に実施した使用前検査成績書により確認する。また、外観検査及び組立・据付検査のうち据付状態を確認する検査については立会により確認する。

VI. 判定基準

1. 材料検査

実施計画のとおりであること。

2. 寸法検査

実施計画に記載されている各部の主要寸法の計測値が許容寸法を満足すること。
主要配管については、実施計画に記載されている主要寸法のとおりであること。

3. 外観検査

機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。

4. 組立・据付検査

- a. 実施計画のとおり組立て、据付けられていること。
- b. タンク基礎に異常な不陸がないこと。
- c. 支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力がタンクの鉛直荷重より大きいこと。

5. 耐圧・漏えい検査

a. 耐圧検査

検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。

b. 漏えい検査

（雨水回収タンク）

漏えい及び水位の低下がなく貯留できること。

（主要配管）

耐圧部から漏えいがないこと。

6. 耐圧代替検査

- a. 局部漏えい検査については、発泡又は気泡の成長若しくは気体の噴出がないこと。
- b. 磁粉探傷試験及び超音波探傷試験については、その結果が日本機械学会「発電用

原子力設備規格 溶接規格 (2007)」に適合すること。

磁粉探傷試験の判定基準は、下記のとおり。

溶接部の場合	<p>JIS G0565 の「9 磁粉模様分類」により分類した結果、次の 1. から 5. までに適合すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 割れによる磁粉模様がないこと 2. 長さ 1 mm を超える線状の磁粉模様がないこと 3. 長さ 4 mm を超える円形状の磁粉模様がないこと 4. 4 個以上の円形状の磁粉模様が直線上に並んでいる場合は、隣接する磁粉模様間の距離が 1.5 mm を超えること 5. 面積が 3750 mm² の長方形 (短辺の長さは、25 mm 以上とする) 内に円形状の磁粉模様が 10 個以上含まれないこと。 ただし、長さが 1.5 mm 以下の磁粉模様は算定することを要しない。
--------	---

超音波探傷試験の判定基準は、下記のとおり。

判定基準	<p>次の 1. または 2. のいずれかに適合すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 溶接部のきずからの反射波のブラウン管上の高さが、標準穴反射波のブラウン管上の高さを探触子ときずとの間の距離について補正した値以下であること 2. 溶接部のきずからの反射波のブラウン管上の高さが標準穴反射波のブラウン管上の高さを探触子ときずとの間の距離について補正した値を超える部分の長さが、次の表の左項に掲げる溶接部の厚さの区分に応じ、それぞれ同表の右項に掲げる値以下であること 	
	溶接部の厚さの区分 (mm)	長さ (mm)
	18 以下	6
	18 を超え 57 以下	溶接部の厚さの 3 分の 1
	57 を超えるもの	19

7. 性能検査

(1) 運転性能検査

集水ピット内部に設置されるポンプについては異音、振動等の異常がないこと。その他のポンプについては異音、異臭、振動、漏えい等の異常がないこと。

8. 機能検査

(1) 通水検査

通水でき、かつ、漏えいのないこと。

9. 用途変更に関する確認事項

(1) 材料検査

実施計画のとおりであること。

(2) 寸法検査

実施計画のとおりであること。

(3) 外観検査

機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。

(4) 組立・据付検査

a. 実施計画のとおり組立て、据付けられていること。

b. タンク基礎に異常な不陸がないこと。

c. 支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力がタンクの鉛直荷重より大きいこと。

(5) 耐圧・漏えい検査

a. 耐圧検査

検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。

b. 漏えい検査

漏えい及び水位の低下がなく貯留できること。

(6) 漏えい拡大防止機能検査

基礎外周堰の堰内容量が必要堰内容量以上であること。

VII. 添付資料

1. 検査項目表

2. 寸法検査許容寸法

3. 使用前検査成績書様式

4. 関連図書及び詳細手順

資料1. 実施計画（抜粋）

資料2. 検査範囲図

資料3. 耐圧・漏えい検査要領

資料4. 通水検査要領

検査項目表

設備名 : 雨水処理設備等
 雨水移送用貯留設備
 関連設備

設備・機器名	材料検査	寸法検査	外観検査	組立・据付検査	耐圧・漏えい検査	耐圧代替検査	性能検査	機能検査	用途変更に関する 確認事項
							運転性能検査	通水検査	
雨水回収タンク	○	○	○	○	○	○	—	—	○ ※
雨水回収タンク 基礎外周堰	—	○	○	○	—	—	—	—	○ ※
集水ピット抜出ポンプ 雨水回収タンク移送ポンプ 中継タンク直送ポンプ	—	—	○	○	—	—	○	—	—
主要配管	○	○	○	○	○	—	—	○	—

※ 汚染水処理設備等RO濃縮水貯槽から用途変更された雨水回収タンク（G3西-D7）を対象とする。

寸法検査許容寸法

<計測方法について>

J2, J3, H6(I)

- ・内径は 0° - 180° , 45° - 225° , 90° - 270° , 135° - 315° の 4 方向を測定する。
- ・高さは、底板上面からトップアングル上面までの寸法。

B

- ・内径は 22.5° - 202.5° , 67.5° - 247.5° , 112.5° - 292.5° , 157.5° - 337.5° の 4 方向を測定する。
- ・高さは、底板上面からトップアングル上面までの寸法。

基礎外周堰

- ・堰の高さについては、各変化点を測定する。

<許容寸法について>

- ・タンクの内径、胴板厚さ、底板厚さ、高さの許容寸法については、添付資料－ 4 「関連図書及び詳細手順」資料 1. 「実施計画（抜粋）」の別冊 1 4 「雨水処理設備等に係わる補足説明」による。

- ・タンクの基礎外周堰の許容寸法については、添付資料－ 4 「関連図書及び詳細手順」資料 1. 「実施計画（抜粋）」の「別表－ 1 各タンク設置エリアの基礎外周堰の高さ」による。

特定原子力施設検査成績書
(使用前検査)

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所

工事の工程：構造、強度又は漏えいに係る試験をすることが
できる状態になった時
設備の組立てが完了した時
工事の計画に係る工事が完了した時

対象設備：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

要領書番号：原規規収第 1911112 号 01

年 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

1. 施設名 東京電力ホールディングス株式会社 福島第一原子力発電所
2. 検査の種類 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則第20条第1項の表第一号、第二号及び第三号に係る雨水処理設備等のうち雨水移送用貯留設備及び関連設備の使用前検査
3. 検査申請 使用前検査申請番号
4. 検査期日 自 年 月 日
至 年 月 日
5. 検査場所
6. 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
7. 検査結果 検査結果一覧表のとおり
8. 添付資料 (1) 検査前確認事項
(2) 材料検査記録
(3) 寸法検査記録
(4) 外観検査記録
(5) 組立・据付検査記録
(6) 耐圧・漏えい検査記録
(7) 耐圧代替検査記録
(8) 性能検査（運転性能検査）記録
(9) 機能検査（通水検査）記録
(10) 用途変更に関する確認事項
(11) 検査用計器一覧表（立会分）

検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
年 月 日			
年 月 日			
年 月 日			

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等

雨水移送用貯留設備

検査範囲	材料検査	寸法検査	外観検査	組立・ 据付検査	耐圧・ 漏えい検査	耐圧代替検査	備考
雨水回収タンク	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
雨水回収タンク 基礎外周堰	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査範囲	外観検査	組立・ 据付検査	備考
集水ピット抽出ポンプ	年 月 日	年 月 日	
雨水回収タンク移送ポンプ	年 月 日	年 月 日	
中継タンク直送ポンプ	年 月 日	年 月 日	

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査範囲	材料検査	寸法検査	外観検査	組立・据付検査	耐圧・漏えい検査	備考
主要配管	年 月 日					
	年 月 日					
	年 月 日					

検査結果一覧表

設備名：雨水処理設備等
 雨水移送用貯留設備
 関連設備

検査範囲	検査項目		備考
集水ピット抽出ポンプ	性能検査 運転性能検査	月 年 日	
		月 年 日	
雨水回収タンク移送ポンプ	性能検査 運転性能検査	月 年 日	
		月 年 日	
中継タンク直送ポンプ	性能検査 運転性能検査	月 年 日	
		月 年 日	
主要配管	機能検査 通水検査	月 年 日	
		月 年 日	
雨水回収タンク G3 西-D7 A121	用途変更 に関する確認事項	月 年 日	
		月 年 日	

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
 雨水移送用貯留設備
 関連設備

検査場所：_____

検査項目：共通事項

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書 (変更申請を含む。)が準備され ていることを確認する。*	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及 び場所が申請書どおりであるこ とを確認する。	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		
	記録	年 月 日		

※ 使用前検査成績書の「3. 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：　　

検査項目：材料検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		

設備名：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：　　

検査項目：寸法検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：　　

検査項目：外観検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		

設備名：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：　　

検査項目：組立・据付検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
耐圧・漏えい検査で漏えい確認できないフランジ部については適切に締め付けられていることを確認する。	記録	品質記録		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備
関連設備

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

検査項目：耐圧・漏えい検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		
系統構成が適切であることを確認する。	立会又は記録	現場又は品質記録等		

設備名：雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

検査項目：耐圧代替検査

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
使用する検査用計器が必要な測定範囲及び精度を有し、校正が適切に行われ、有効期限内であることを校正記録等により確認する。	記録	校正記録等		

検査前確認事項

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：　　

検査項目：性能検査（運転性能検査）

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		

設備名：雨水処理設備等
関連設備

検査年月日：　　年　　月　　日

検査場所：　　

検査項目：機能検査（通水検査）

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていることを確認する。	記録	品質記録		
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
系統構成が適切であることを確認する。	立会又は記録	現場又は品質記録等		

検査前確認事項

設備名 : 雨水処理設備等
雨水移送用貯留設備

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

検査項目 : 用途変更に関する確認事項

確認事項	確認方法	確認対象	結果	備考
必要な図面等が準備されていることを確認する。	記録	実施計画等		
実施計画に基づき保全が実施されていることを品質記録により確認する。	記録	品質記録		

材料検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：雨水移送用貯留設備

名称	機器番号	材 料		判定基準	結果
雨水回収タンク	J2 A111B	銅板	SM400A	実施計画のとおりであること。	
	J3 A111C				
	H6(Ⅰ) A031				
	B A051		SM400C		

備 考

申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

材料検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（雨水移送）

名称	材 料	判定基準	結果
集水ピット抜出ポンプから雨水回収タンクまたは中継タンク入口ヘッダーまで	SUS304TP	実施計画のとおりであること。	
	SUS304 (伸縮継手)		
	ポリエチレン		
雨水回収タンクから集合ヘッダーまたは中継タンク入口ヘッダーまで	SUS304TP		
	ポリエチレン		
集合ヘッダーから中継タンクまたは雨水受入タンクまで	SUS304TP		
	ポリエチレン		
中継タンクから集合ヘッダーまで	ポリエチレン		
備 考 申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：			

寸法検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等
 検査対象：雨水移送用貯留設備

名称	項目	実施計画記載値 (mm)	許容寸法 (mm)	判定基準	計測値 (mm)	結果
雨水回収タンク J2 A111B	内径	9,000	1%以下*1	実施計画に記載されている各部の主要寸法の計測値が許容寸法を満足すること。	—*2	
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65			
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65			
	高さ	12,012	12,007～12,017			
雨水回収タンク J3 A111C	内径	9,000	1%以下*1		—*3	
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65			
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65			
	高さ	12,012	12,007～12,017			
雨水回収タンク H6(I) A031	内径	9,000	1%以下*1		—*4	
	胴板厚さ	12.0	11.35～12.65			
	底板厚さ	12.0	11.35～12.65			
	高さ	12,012	12,007～12,017			

備考

申請者の品質記録により確認
 品質記録（名称、日付）：

- *1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の1%以下
- *2 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の内径の1%以下であることを確認。（ %）
- *3 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の内径の1%以下であることを確認。（ %）
- *4 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の内径の1%以下であることを確認。（ %）

記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

寸法検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：雨水移送用貯留設備

名称	項目	実施計画 記載値 (mm)	許容寸法 (mm)	判定基準	計測値 (mm)	結果
雨水回収 タンク B A051	内径	11,000	1%以下*1	実施計画に記載 されている各部 の主要寸法の計 測値が許容寸法 を満足するこ と。	—*2	
	胴板厚さ	15.0	13.80～16.60			
	底板厚さ	12.0	10.80～13.60			
	高さ	14,900	14,890～14,910			

備考

申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

*1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の1%以下

*2 内径については、最大内径（ mm）、最小内径（ mm）で、その差が判定基準の内径の1%以下であることを確認。（ %）

記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

寸法検査記録

検査年月日： 年 月 日

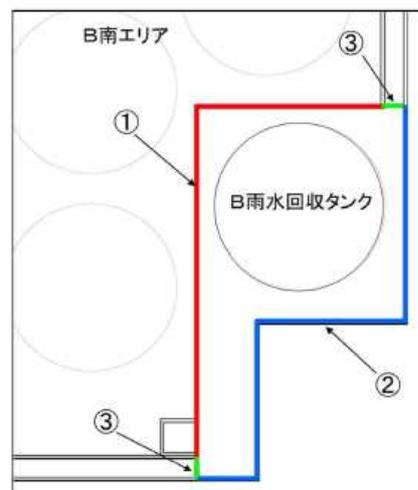
検査場所：

設備名：雨水処理設備等
 検査対象：雨水移送用貯留設備

名称		項目	許容寸法 (mm)	判定基準	計測値 (mm)	結果
雨水回収タンク 基礎外周堰	J2 A111B J3 A111C	高さ	1000±50	実施計画に記載されている各部の主要寸法の計測値が許容寸法を満足すること。		
	H6(I) A031	高さ	1080以上		①	
	B A051	高さ	①1917以上 ②1700以上 1917未満 ③1500以上 1700未満		②	
					③	

備考

申請者の品質記録により確認
 品質記録（名称、日付）：



記録確認分については使用した検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

：確認

寸法検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等

検査対象 : 関連設備

主要配管 (雨水移送)

名称		実施計画 記載値	判定基準	結果
集水ピット抜出ポンプから 雨水回収タンクまたは中継 タンク入口ヘッダーまで	SUS304TP	80A/Sch. 40	実施計画に記載 されている主要 寸法のとおりで あること。	
		100A/Sch. 40		
		150A/Sch. 40		
	SUS304 (伸縮継手)	80A 相当		
	ポリエチレン	75A 相当		
		100A 相当		
150A 相当				
雨水回収タンクから集合ヘ ッダーまたは中継タンク入 口ヘッダーまで	SUS304TP	80A/Sch. 40		
		100A/Sch. 40		
	ポリエチレン	75A 相当		
		100A 相当		
集合ヘッダーから中継タン クまたは雨水受入タンクま で	SUS304TP	80A/Sch. 40		
		100A/Sch. 40		
		150A/Sch. 40		
		200A/Sch. 40		
	ポリエチレン	100A 相当		
		150A 相当		
中継タンクから集合ヘッダ ーまで	ポリエチレン	100A 相当		
備 考 申請者の品質記録により確認 品質記録 (名称、日付) :				

外観検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：雨水移送用貯留設備

名称	機器番号	判定基準	結果
雨水回収タンク	J2 A111B	機器等の健全性に影響を及ぼす 表面のかき傷、クラック、変形等 の有害な欠陥がないこと。	
	J3 A111C		
	H6(I) A031		
	B A051		

備考

*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

外観検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日

検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等
 検査対象 : 雨水移送用貯留設備
 関連設備

名称		判定基準	結果
雨水回収タンク基礎外周堰	J2 A111B J3 A111C	機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。	
	H6(I) A031		
	B A051		
集水ピット抜出ポンプ 36m ³ /h × 14 台 C311B3, C311B4, C341B1, C341B2, C341C1, C341C2, C361A1, C361A2, C361B1, C361B2, C361B3, C361B4, C353A1, C353A2 48m ³ /h × 6 台 C311A5, C311A6, C321A5, C321A6, C321A7, C321A8			
雨水回収タンク移送ポンプ C111A , C111B , C122			
中継タンク直送ポンプ C371			
主要配管 (雨水移送)	集水ピット抜出ポンプから 雨水回収タンクまたは中継タンク入口ヘッダーまで		
	雨水回収タンクから 集合ヘッダーまたは中継タンク入口ヘッダーまで		
	集合ヘッダーから 中継タンクまたは雨水受入タンクまで		
	中継タンクから 集合ヘッダーまで		
備 考 *は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付） :			

組立・据付検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：雨水移送用貯留設備

名称	機器番号	判定基準	結果
雨水回収タンク	J2 A111B	実施計画のとおりに組立て、据付けられていること。	
	J3 A111C		
	H6(I) A031		
	B A051		

備考

*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

組立・据付検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日
 検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等
 検査対象 : 雨水移送用貯留設備

名称	機器番号	判定基準	結果
雨水回収タンク	J2 A111B	<ul style="list-style-type: none"> ・タンク基礎に異常な不陸がないこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> : タンク基礎の不陸について (タンク基礎の設計高さ±30mm)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力が タンクの鉛直荷重より大きいこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> : 地盤支持力の確認 タンクの鉛直荷重 : _____ kN/m ² タンク基礎底面地盤の支持力 : _____ kN/m ²	
備考 申請者の品質記録により確認 品質記録 (名称、日付) : _____			
記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。 <input type="checkbox"/> : 確認			

組立・据付検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日
 検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等
 検査対象 : 雨水移送用貯留設備

名称	機器番号	判定基準	結果
雨水回収タンク	J3 A111C	<ul style="list-style-type: none"> ・タンク基礎に異常な不陸がないこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> : タンク基礎の不陸について (タンク基礎の設計高さ±30mm)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力が タンクの鉛直荷重より大きいこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> : 地盤支持力の確認 タンクの鉛直荷重 : _____ kN/m ² タンク基礎底面地盤の支持力 : _____ kN/m ²	
備考 申請者の品質記録により確認 品質記録 (名称、日付) : _____			
記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。 <input type="checkbox"/> : 確認			

組立・据付検査記録

検査年月日 : _____ 年 _____ 月 _____ 日
 検査場所 : _____

設備名 : 雨水処理設備等
 検査対象 : 雨水移送用貯留設備

名称	機器番号	判定基準	結果
雨水回収タンク	B A051	・タンク基礎に異常な不陸がないこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> : タンク基礎の不陸について (タンク基礎の設計高さ±30mm)	
		・支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力が タンクの鉛直荷重より大きいこと。 確認事項 <input type="checkbox"/> : 地盤支持力の確認 タンクの鉛直荷重 : _____ kN/m ² タンク基礎底面地盤の支持力 : _____ kN/m ²	

備考

申請者の品質記録により確認
 品質記録 (名称、日付) :

記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。

: 確認

組立・据付検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：雨水移送用貯留設備

関連設備

名称		判定基準	結果
雨水回収タンク基礎外周堰	J2 A111B J3 A111C	実施計画のとおりに組立て、据付けられていること。	
	H6(Ⅰ) A031		
	B A051		
集水ピット抜出ポンプ 36m ³ /h × 14 台 C311B3, C311B4, C341B1, C341B2, C341C1, C341C2, C361A1, C361A2, C361B1, C361B2, C361B3, C361B4, C353A1, C353A2 48m ³ /h × 6 台 C311A5, C311A6, C321A5, C321A6, C321A7, C321A8			
雨水回収タンク移送ポンプ C111A, C111B, C122			
中継タンク直送ポンプ C371			
主要配管 (雨水移送)	集水ピット抜出ポンプから 雨水回収タンクまたは中継タンク入口ヘッダーまで		
	雨水回収タンクから 集合ヘッダーまたは中継タンク入口ヘッダーまで		
	集合ヘッダーから 中継タンクまたは雨水受入タンクまで		
	中継タンクから 集合ヘッダーまで		
備 考 *は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：			

耐圧・漏えい検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：雨水移送用貯留設備

名称	機器番号	最高使用 圧力	検査圧力	保持時間 (分)	結果
雨水回収タンク	J2 A111B	静水頭	静水頭		
	J3 A111C	静水頭	静水頭		
	H6(I) A031	静水頭	静水頭		
	B A051	静水頭	静水頭		
<p>判定基準</p> <p>耐圧検査：検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。 漏えい検査：漏えい及び水位の低下がなく貯留できること</p> <p>備考</p> <p>耐圧・漏えい検査の方法：水圧</p> <p>申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：</p> <p>記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。 <input type="checkbox"/>：確認</p>					

耐圧・漏えい検査記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（雨水移送）

名称		最高使用 圧力(MPa)	検査圧力 (MPa)	保持時間 (分)	結果
集水ピット抜出ポンプから雨水回収タンクまたは中継タンク入口ヘッダーまで	ポリエチレン	0.5			
		0.74			
	SUS304TP	0.5			
		0.74			
SUS304 (伸縮継手)	0.74				
	0.74				
雨水回収タンクから集合ヘッダーまたは中継タンク入口ヘッダーまで	ポリエチレン	0.74			
	SUS304TP	0.74			
集合ヘッダーから中継タンクまたは雨水受入タンクまで	ポリエチレン	0.74			
	SUS304TP	0.74			
中継タンクから集合ヘッダーまで	ポリエチレン	0.74			
判定基準 耐圧検査：検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。 漏えい検査：耐圧部から漏えいがないこと。					
備考 耐圧・漏えい検査の方法：水圧 ＊は立会を示す。それ以外は申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：					
記録確認分については検査用計器が検査実施日に有効であったことを確認する。 <input type="checkbox"/> ：確認					

性能検査（運転性能検査）記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

名称	判定基準	結果
集水ピット抜出ポンプ 36m ³ /h × 14 台 C311B3, C311B4, C341B1, C341B2, C341C1, C341C2, C361A1, C361A2, C361B1, C361B2, C361B3, C361B4, C353A1, C353A2 48m ³ /h × 6 台 C311A5, C311A6, C321A5, C321A6, C321A7, C321A8	異音、振動等の異常がないこと。	
雨水回収タンク移送ポンプ C111A , C111B , C122	異音、異臭、振動、漏えい等の異常がないこと。	
中継タンク直送ポンプ C371		
備考 *は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認 品質記録（名称、日付）：		

機能検査（通水検査）記録

検査年月日： 年 月 日

検査場所：

設備名：雨水処理設備等

検査対象：関連設備

主要配管（雨水移送）

名称	判定基準	結果
集水ピット抜出ポンプから雨水回収タンクまたは中継タンク入口ヘッダーまで	通水でき、かつ、漏えいのないこと。	
雨水回収タンクから集合ヘッダーまたは中継タンク入口ヘッダーまで		
集合ヘッダーから中継タンクまたは雨水受入タンクまで		
中継タンクから集合ヘッダーまで		

備考

*は立会を示す。それ以外は、申請者の品質記録により確認
品質記録（名称、日付）：

用途変更に関する確認事項

検査年月日： 年 月 日

検査場所： _____

設備名：雨水処理設備等

検査対象：雨水移送用貯留設備

名称	検査項目	判定基準	結果
雨水回収タンク G3 西-D7 A121	材料検査	実施計画のとおりであること。	
	寸法検査	実施計画のとおりであること。	
	外観検査	機器等の健全性に影響を及ぼす表面のかき傷、クラック、変形等の有害な欠陥がないこと。（基礎外周堰含む）	
	組立・据付 検査	実施計画のとおりに組立て、据付けられていること。 （基礎外周堰含む）	
		タンク基礎に異常な不陸がないこと。	
		支持力試験によるタンク基礎底面地盤の支持力がタンクの鉛直荷重より大きいこと。	
	耐圧・漏えい 検査	耐圧検査：検査圧力に耐え、かつ、異常のないこと。 漏えい検査：漏えい及び水位の低下がなく貯留できること	
漏えい拡大 防止機能 検査	基礎外周堰の堰内容量が必要堰内容量以上であること。		
<p>備考</p> <p>外観検査及び組立・据付検査のうち据付状態を確認する検査については立会により確認。それ以外については、使用前検査成績書により確認。</p> <p>確認した使用前検査成績書（名称、日付）：</p>			

検査用計器一覧表（立会分）

検査年月日： 年 月 日

検査項目	計器名称	計器番号	校正年月日 有効期限	備考

関連図書及び詳細手順

- 資料 1. 実施計画（抜粋）
- 資料 2. 検査範囲図
- 資料 3. 耐圧・漏えい検査要領
- 資料 4. 通水検査要領

注) 資料 1. は実施計画の情報をもとに作成、資料 2. 資料 3. 及び資料 4. は申請者の情報をもとに作成した資料である。

実施計画 (抜粋)

2.36 雨水処理設備等

検査対象

2.36.2.1.2 雨水移送用貯留設備 (タンク), 関連設備 (移送配管, 移送ポンプ)

(1) 集水ピット抜出ポンプ (完成品)

台数	70 台
容量	36m ³ /h/台

14 台

台数	8 台
容量	48m ³ /h/台

6 台

(2) 雨水回収タンク移送ポンプ (完成品)

台数	12 台
容量	24m ³ /h/台

3 台

(4) 中継タンク直送ポンプ (完成品)

台数	1 台
容量	24m ³ /h/台

1 台

(5) 雨水回収タンク

タンク型式 (名称)	溶接型 (H 6 (I), J 2, J 3)
合計容量 (公称)	2100m ³
基数	3 基
容量 (単基)	700m ³ /基
材料 (胴板)	SM400A
寸法 内径	9000mm
高さ	12012mm
厚さ	底板 12mm, 胴板 12mm

3 基

タンク型式 (名称)	溶接型 (B)
合計容量 (公称)	1330m ³
基数	1 基
容量 (単基)	1330m ³ /基
材料 (胴板)	SM400C
寸法 内径	11000mm
高さ	14900mm
厚さ	底板 12mm, 胴板 15mm

1 基

(6) 雨水回収タンク (平成 27 年 1 月 30 日以前から運用中)

タンク型式 (名称)	溶接型 (G 3 西-D 7)
合計容量 (公称)	1000m ³
基数	1 基
容量 (単基)	1000m ³ /基
材料 (胴板)	SS400
寸法 内径	12000mm
高さ	10537mm
厚さ	底板 12mm, 胴板 12mm

1 基

表 2. 3 6. 1 雨水処理設備等の主要配管仕様
(3) 雨水移送

名 称	仕 様	
⑦集水ピット抜出ポンプから雨水回収タンクまたは中継タンク入口ヘッダーまで	呼び径	<u>75A 相当, 100A 相当,</u> <u>150A 相当</u>
	材質	<u>ポリエチレン</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.5MPa, 0.74MPa</u> 40℃
	呼び径/厚さ	<u>80A/Sch. 40</u> <u>100A/Sch. 40</u> <u>150A/Sch. 40</u>
	材質	<u>SUS304TP</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.5MPa, 0.74MPa</u> 40℃
	呼び径	<u>80A 相当</u>
	材質	<u>SUS304</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.74MPa</u> 40℃ (伸縮継手)
⑧雨水回収タンクから集合ヘッダーまたは中継タンク入口ヘッダーまで	呼び径	<u>75A 相当, 100A 相当</u>
	材質	<u>ポリエチレン</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.74MPa</u> 40℃
	呼び径/厚さ	<u>80A/Sch. 40</u> <u>100A/Sch. 40</u> <u>200A/Sch. 40</u>
	材質	<u>SUS304TP</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.74MPa</u> 40℃
⑨集合ヘッダーから中継タンクまたは雨水受入タンクまで	呼び径	<u>100A 相当, 150A 相当</u>
	材質	<u>ポリエチレン</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.74MPa</u> 40℃
	呼び径/厚さ	<u>80A/Sch. 40</u> <u>100A/Sch. 40</u> <u>150A/Sch. 40</u> <u>200A/Sch. 40</u>
	材質	<u>SUS304TP</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.74MPa</u> 40℃
⑩中継タンクから集合ヘッダーまで	呼び径	<u>75A 相当, 100A 相当</u>
	材質	<u>ポリエチレン</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.74MPa</u> 40℃
	呼び径/厚さ	<u>80A/Sch. 40</u> <u>100A/Sch. 40</u>
	材質	<u>SUS304TP</u>
	最高使用圧力 最高使用温度	<u>0.74MPa</u> 40℃

雨水処理設備等に係る確認事項

表-2 確認事項

(雨水受入タンク, 処理水タンク, 雨水RO濃縮水受入タンク, ろ過処理水受入タンク, 雨水回収タンク^{※1}, 中継タンク^{※2})

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	材料確認	使用材料を材料証明書により確認する。	実施計画に記載の材料が使用されていること。
	寸法確認	主要寸法(板厚, 内径, 高さ)を確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	タンク本体(塗装状態含む)の外観を確認する。	有意な欠陥がないこと。
	据付確認	組立状態及び据付状態を確認する。	組立状態及び据付状態に異常がないこと。
	耐圧・漏えい確認	設計・建設規格に基づき耐圧・漏えい試験を行う。	各部からの有意な漏えいおよび水位の低下がないこと。

※1 : 本文 2.36.2.1.2(5)のタンク

※2 : 連結管を含む

表-3 確認事項
(雨水回収タンク) ※1

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	材料確認	納品書等に添付されている図面、カタログ等又は材料証明書により使用材料を確認する。	実施計画のとおりであること。
	寸法確認	納品書等に添付されている図面、カタログ等により、主要寸法を確認する。	実施計画のとおりであること。
	外観確認	各部の外観を確認する。	有意な欠陥がないこと。
	据付確認	据付位置について確認する。	実施計画のとおり据付されていること。
	耐圧・漏えい確認	確認圧力で保持した後、確認圧力に耐えていることを記録等により確認する。 耐圧確認終了後、耐圧部分からの漏えいの有無を確認する。	確認圧力に耐え、構造物の変形がないこと。 また、耐圧部から漏えいがないこと。

※1：本文 2.36.2.1.2(6)のタンク

表-4 確認事項

(モバイルRO膜装置供給ポンプ*1, RO膜装置供給ポンプ*1, 濃縮水移送ポンプ*1, 集水ピット 抜出ポンプ*2, 雨水回収タンク移送ポンプ*1, 中継タンク直送ポンプ, 中継タンク移送ポンプ, 雨水RO濃縮水移送ラインフィルタユニット供給ポンプ*1, ろ過処理水移送ポンプ*1) *3

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	外観確認	各部の外観を確認する。	有意な欠陥がないこと。
	据付確認	機器の据付状態について確認する。	施工図等の通り施工・据付されていること。
	耐圧・ 漏えい確認	運転圧力で耐圧部分からの漏えいの有無を確認する。	耐圧部から漏えいがないこと。
性能	運転性能 確認	通常運転時に性能確認を行う。	異音, 異臭, 異常振動等がないこと。

※1：タンク内部に設置されているものは、耐圧・漏えい及び運転性能確認は可能な範囲で実施する。

※2：集水ピット内部に設置されており、耐圧・漏えい及び運転性能確認は可能な範囲で実施する。

※3：雨水処理設備等に関わる主要な確認事項を確認するため、本施設の処理対象となる場内雨水を用いた通水試験を実施した上で、使用前検査を受検する

表-5 確認事項(鋼管)※1

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	材料確認	実施計画に記載した主な材料について、材料証明書または納品書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	寸法確認	実施計画に記載した主要寸法について、材料証明書または納品書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	各部の外観について、立会いまたは記録により確認する。	有意な欠陥がないこと。
	据付確認	機器が図面のとおり据付していることを立会いまたは記録により確認する。	図面のとおり施工・据付していること。
	耐圧・漏えい確認	最高使用圧力の 1.5 倍で一定時間保持後、同圧力に耐えていること、また、耐圧部からの漏えいがないことを立会いまたは記録により確認する。	最高使用圧力の 1.5 倍に耐え、かつ構造物の変形等がないこと。また、耐圧部から漏えいがないこと。
機能・性能	通水ができることを立会いまたは記録により確認する。	通水ができること。	

※1：雨水処理設備等に関わる主要な確認事項を確認するため、本施設の処理対象となる堰内雨水を用いた通水試験を実施した上で、使用前検査を受検する

表-6 確認事項 (ポリエチレン管) ※1

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	材料確認	実施計画に記載した材料について、製品検査成績書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	寸法確認	実施計画に記載した主要寸法(外径相当)について、製品検査成績書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	各部の外観について、立会いまたは記録により確認する。	有意な欠陥がないこと。
	据付確認	機器が図面のとおりに据付していることを立会いまたは記録により確認する。	図面のとおり施工・据付していること。
	耐圧・漏えい確認	製品の最高使用圧力以上で一定時間保持後、同圧力に耐えていること、また、耐圧部からの漏えいがないことを立会いまたは記録により確認する。	製品の最高使用圧力に耐え、かつ構造物の変形等がないこと。また、耐圧部から漏えいがないこと。
機能・性能	通水ができることを立会いまたは記録により確認する。	通水ができること。	

※1：雨水処理設備等に関わる主要な確認事項を確認するため、本施設の処理対象となる場内雨水を用いた通水試験を実施した上で、使用前検査を受検する

表-10 確認事項(伸縮継手)※1

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	材料確認	実施計画に記載した主な材料について、材料証明書または納品書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	寸法確認	実施計画に記載した主要寸法について、材料証明書または納品書により確認する。	実施計画の記載とおりであること。
	外観確認	各部の外観について、立会いまたは記録により確認する。	有意な欠陥がないこと。
	据付確認	機器が図面のとおり据付していることを立会いまたは記録により確認する。	図面のとおり施工・据付していること。
	耐圧・漏えい確認	製品の最高使用圧力の1.5倍で一定時間保持後、同圧力に耐えていること、また、耐圧部からの漏えいがないことを立会いまたは記録により確認する。※2	製品の最高使用圧力の1.5倍に耐え、かつ構造物の変形等がないこと。また、耐圧部から漏えいがないこと。
機能・性能	通水ができることを立会いまたは記録により確認する。	通水ができること。	

※1：雨水処理設備等に関わる主要な確認事項を確認するため、本施設の処理対象となる堰内雨水を用いた通水試験を実施した上で、使用前検査を受検する。

※2：集水ピット内部に設置されており、耐圧・漏えい確認は可能な範囲で実施する。

表-11 確認事項（堰^{※1}その他の設備）

確認事項	確認項目	確認内容	判定基準
構造強度 ・耐震性	寸法確認 ^{※2}	基礎外周堰の高さを確認する。	実施計画の記載とおりにあること。
	据付確認	タンク基礎の不陸について確認する。	異常な不陸がないこと。
	外観確認	基礎外周堰の外観を確認する。	有意な欠陥がないこと。
	地盤支持力 確認	支持力試験にてタンク基礎の地盤支持力を確認する。	必要な支持力を有していること。

※1：実施計画の変更認可（2018年5月）から新設する範囲の2.36.2.1.1(8),(9),(10),(11)および2.36.2.1.2(5)のタンク堰。

※2：寸法確認の対象となる各タンク設置エリアの基礎外周堰高さを別表-1に示す。

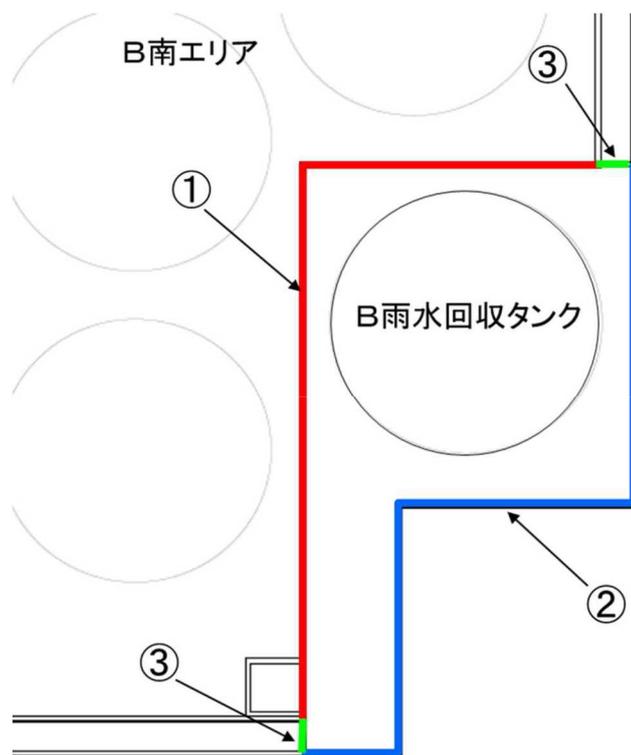
別表-1 各タンク設置エリアの基礎外周堰の高さ

タンク名称	基礎外周堰高さ (mm)
H6 (I) 雨水回収タンク	1080 以上
B 雨水回収タンク ^{※3}	① 1917 以上 ② 1700 以上 1917 未満 ③ 1500 以上 1700 未満
J2, J3 雨水回収タンク	1000 ±50
モバイルRO膜装置雨水受入タンク	1000 ±50
モバイルRO膜装置処理水タンク ^{※4}	① 959 以上 ② 870 以上 959 未満 ③ 770 以上 870 未満
雨水RO濃縮水受入タンク ろ過処理水受入タンク	998 以上

※3：別図-1 参照

※4：別図-2 参照

別図-1 B雨水回収タンク堰詳細図



1.3 タンク基礎の支持力

(1) 評価方法

タンクの鉛直荷重と極限支持力を比較して評価を行う。支持力の算定式は「社団法人日本道路協会(2002):道路橋示方書・同解説IV下部構造編」に基づき次式を用いる。計算した結果、①タンクの鉛直荷重<②タンク基礎底面地盤の極限支持力であり、安全性を有していることを確認する。

$$\text{①タンクの鉛直荷重: } W = m \times g$$

$$\text{②タンク基礎底面地盤の極限支持力: } Q_u = A_c \left(\alpha k c N_c S_c + k q N_q S_q + \frac{1}{2} \gamma_1 \beta B_c N_r S_r \right)$$

m : 機器質量

g : 重力加速度

A_c : 有効載荷面積

α, β : 基礎の形状係数

k : 根入れ効果に対する割増し係数

c : 地盤の粘着力

N_c, N_q, N_r : 荷重の傾斜を考慮した支持力係数

S_c, S_q, S_r : 支持力係数の寸法効果に関する補正係数

q : 上載荷重 ($q = \gamma_2 D_f$)

γ_1, γ_2 : 支持地盤及び根入れ地盤の単位重量 ($\gamma_1, \gamma_2 = 15.9 \text{ kN/m}^3$)

D_f : 基礎の有効根入れ深さ

B_c : 荷重の偏心を考慮した基礎の有効載荷幅 ($B_c = B - 2e_B$)

B : 基礎幅

e_B : 荷重の偏心量

(2) 管理

地盤改良後、簡易支持力測定器(キャスポル)*により地盤の強度を測定し、上記式により必要な極限支持力を有していることを確認する。

※ランマー(重鎮)を一定の高さから地盤に自由落下させたときに生ずる衝撃加速度の最大値と地盤強度特性値と相関させる衝撃加速度法を基本原理とした簡易な測定器。

1.4 タンク基礎の不陸

(1) 評価方法

タンクの設置高さが、設計高さに対して許容値以内*であることを確認する。

※ 設計高さ±30mm(社内基準値)

(2) 管理

タンク基礎高さ(レベル)を測量し、当該高さが設計高さに対して±30mm以内であることを確認する。

別冊 1 4
雨水処理設備等に係わる補足説明

II 雨水処理設備等の寸法許容範囲について

1. 設備仕様

1.1 雨水回収タンク

(1) B

	主要寸法[mm]	寸法許容範囲
内径	11,000	JSMEによる公差(1.0%)*1
胴板厚さ	15.0	メーカー基準(+1.60mm, -1.20mm)
底板厚さ	12.0	メーカー基準(+1.60mm, -1.20mm)
高さ	14,900	メーカー基準(±10mm)

(2) J 2, J 3

	主要寸法[mm]	寸法許容範囲
内径	9,000	JSMEによる公差(1.0%)*1
胴板厚さ	12.0	メーカー基準(±0.65mm)
底板厚さ	12.0	メーカー基準(±0.65mm)
高さ	12,012	メーカー基準(±5mm)

(3) H 6 (I)

	主要寸法[mm]	寸法許容範囲
内径	9,000	JSMEによる公差(1.0%)*1
胴板厚さ	12.0	メーカー基準(±0.65mm)
底板厚さ	12.0	メーカー基準(±0.65mm)
高さ	12,012	メーカー基準(±5mm)

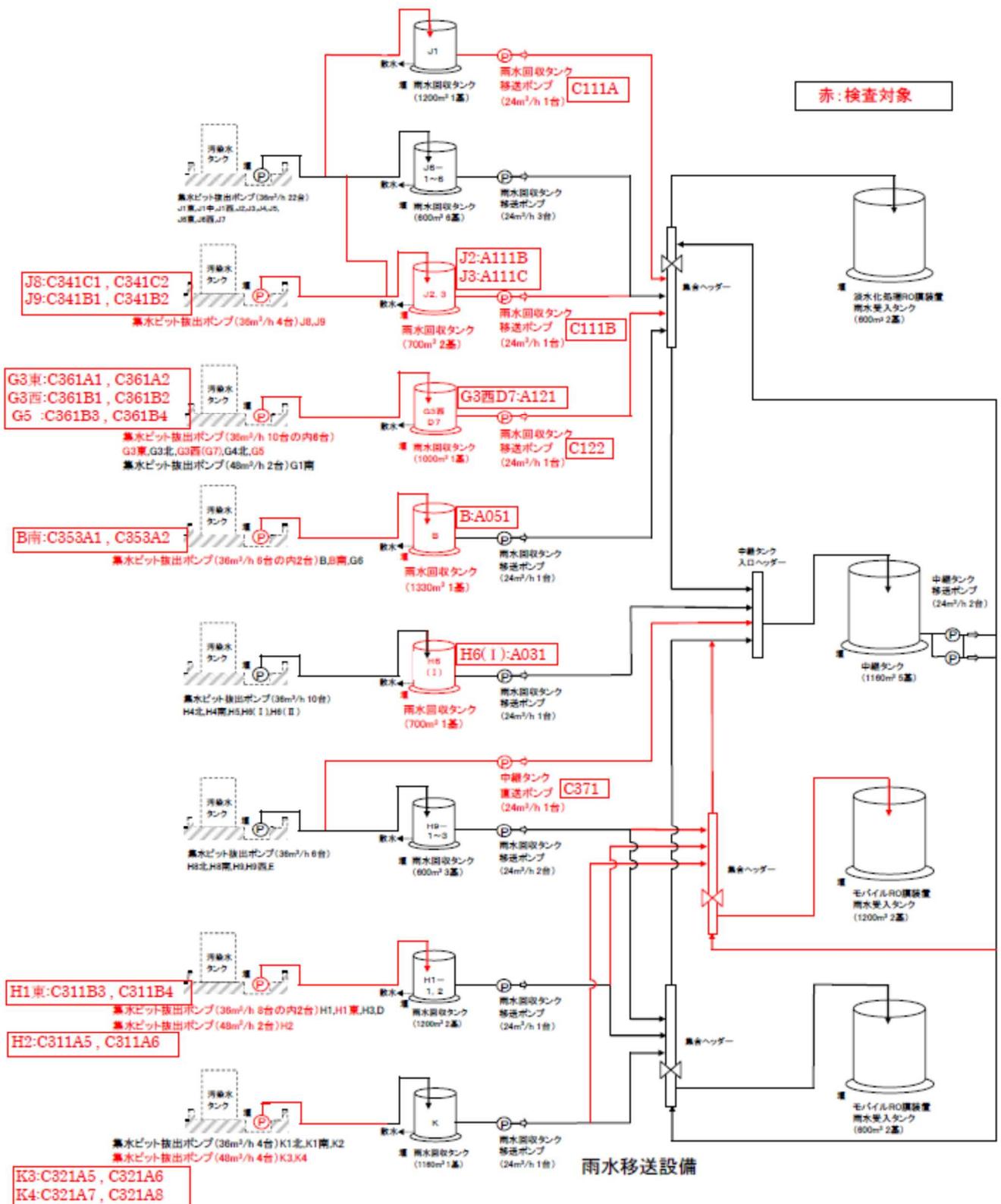
*1 最大内径と最小内径との差が当該断面の呼び内径の1%以下

Ⅲ 雨水処理設備等の耐圧検査条件について

1. 耐圧検査条件

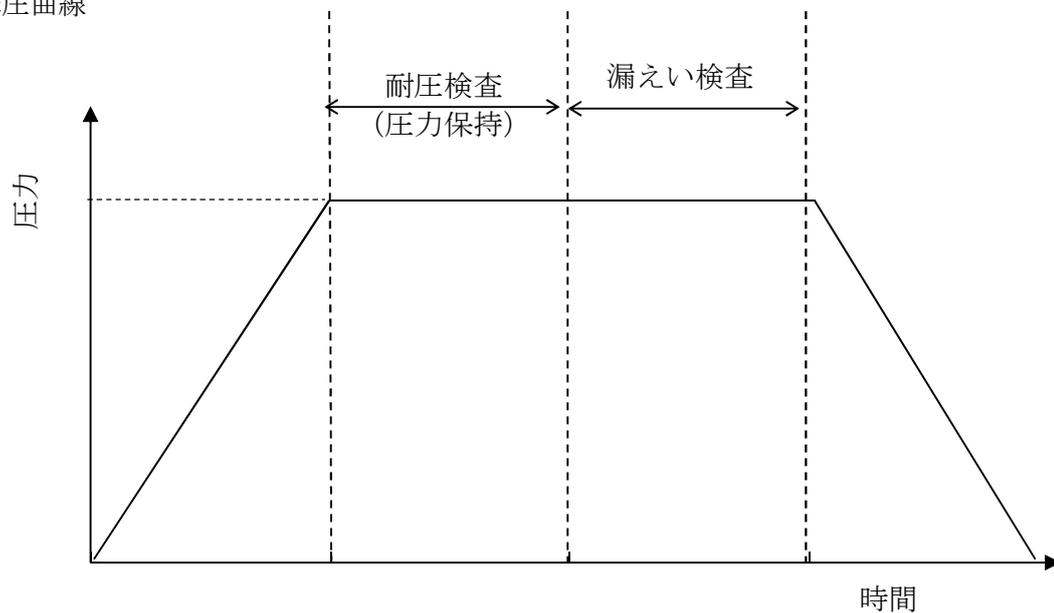
検査範囲		最高使用 圧力 (MPa)	耐圧検査圧力 漏えい検査圧力 (MPa)	耐圧検査保持 時間 (分)	水圧・気圧 の区分
主要配管	<u>鋼管</u>	<u>0.5</u>	<u>0.75</u>	<u>10</u>	<u>水圧</u>
		<u>0.74</u>	<u>1.11</u>		
		0.98	1.47		
	<u>鋼管（伸縮継 手）</u>	<u>0.74</u>	<u>1.50</u>	<u>10</u>	<u>水圧</u>
	<u>ポリエチレン管</u>	<u>0.5</u> <u>0.74</u> 0.98	<u>1.0</u>	<u>60</u>	<u>水圧</u>
合成ゴム管	0.98	1.47	10	水圧	
雨水受入タンク	<u>静水頭</u>	<u>静水頭</u>	<u>10</u>	<u>水圧</u>	
処理水タンク					
雨水RO濃縮水受入タンク					
ろ過処理水受入タンク					
<u>雨水回収タンク</u>					
雨水RO濃縮水移送ライン フィルタ容器	0.98	1.47	10	水圧	

検査範囲図



耐圧・漏えい検査要領

1. 昇降圧曲線



2. 検査条件

検査範囲		最高使用圧力 (MPa)	耐圧検査圧力 漏えい検査圧力 (MPa)	耐圧検査 保持時間 (分)	水圧・気 圧の 区分
主要配管	鋼管	0.5	0.75	10	水圧
		0.74	1.11	10	水圧
	鋼管(伸縮継手)	0.74	1.50	10	水圧
	ポリエチレン管	0.5	1.0	60	水圧
0.74					
雨水回収タンク		静水頭	静水頭	10	水圧

検査条件は、実施計画別冊 1 4 「Ⅲ 雨水処理設備等の耐圧検査条件について」による。

通水検査要領

通水検査は以下のとおり実施する。

1 J 1 東集水ピット抽出ポンプ→J 1 雨水回収タンク

<通水範囲>

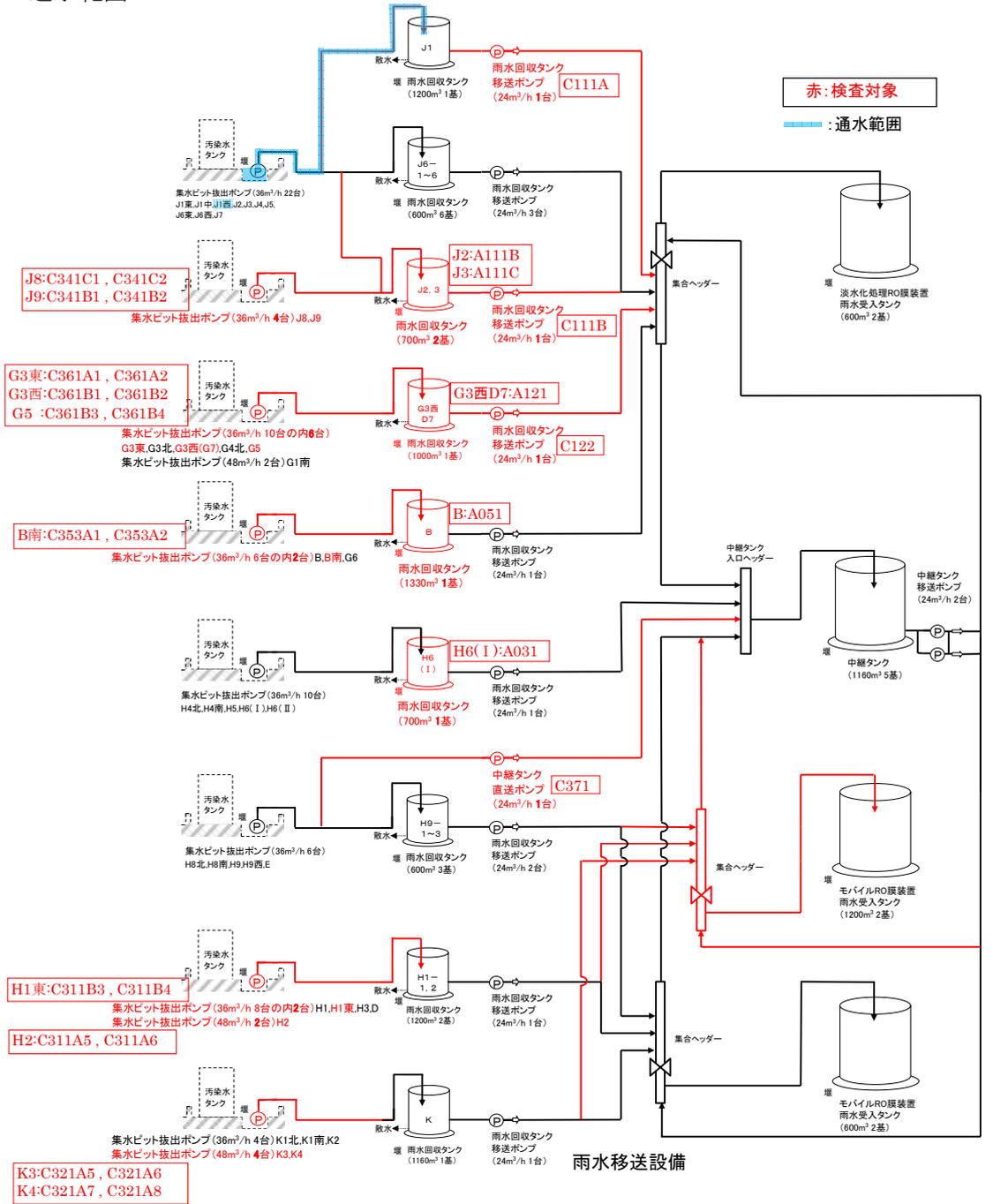
赤:検査対象
通水範囲

雨水移送設備

(1)	J 1 東集水ピット抽出ポンプから J 1 雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
(2)	J 1 東集水ピット抽出ポンプ A (C391A1) を起動する。
(3)	J 1 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
(4)	J 1 東集水ピット抽出ポンプ A (C391A1) を停止する。

3 J 1 西集水ピット抽出ポンプ→J 1 雨水回収タンク

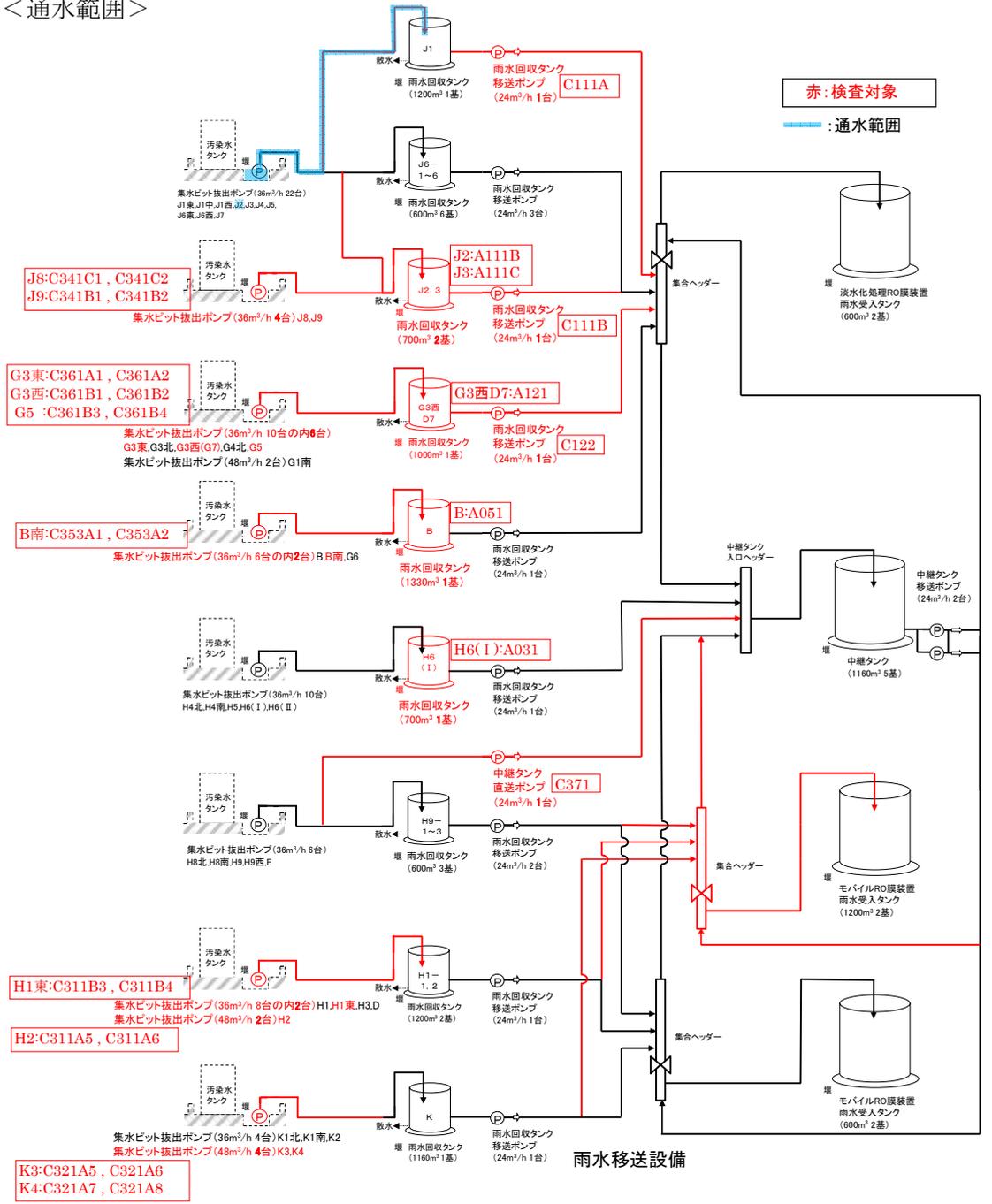
< 通水範囲 >



- (1) J 1 西集水ピット抽出ポンプから J 1 雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J 1 西集水ピット抽出ポンプ A (C391B1) を起動する。
- (3) J 1 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 1 西集水ピット抽出ポンプ A (C391B1) を停止する。

4 J 2 集水ピット抽出ポンプ→J 1 雨水回収タンク

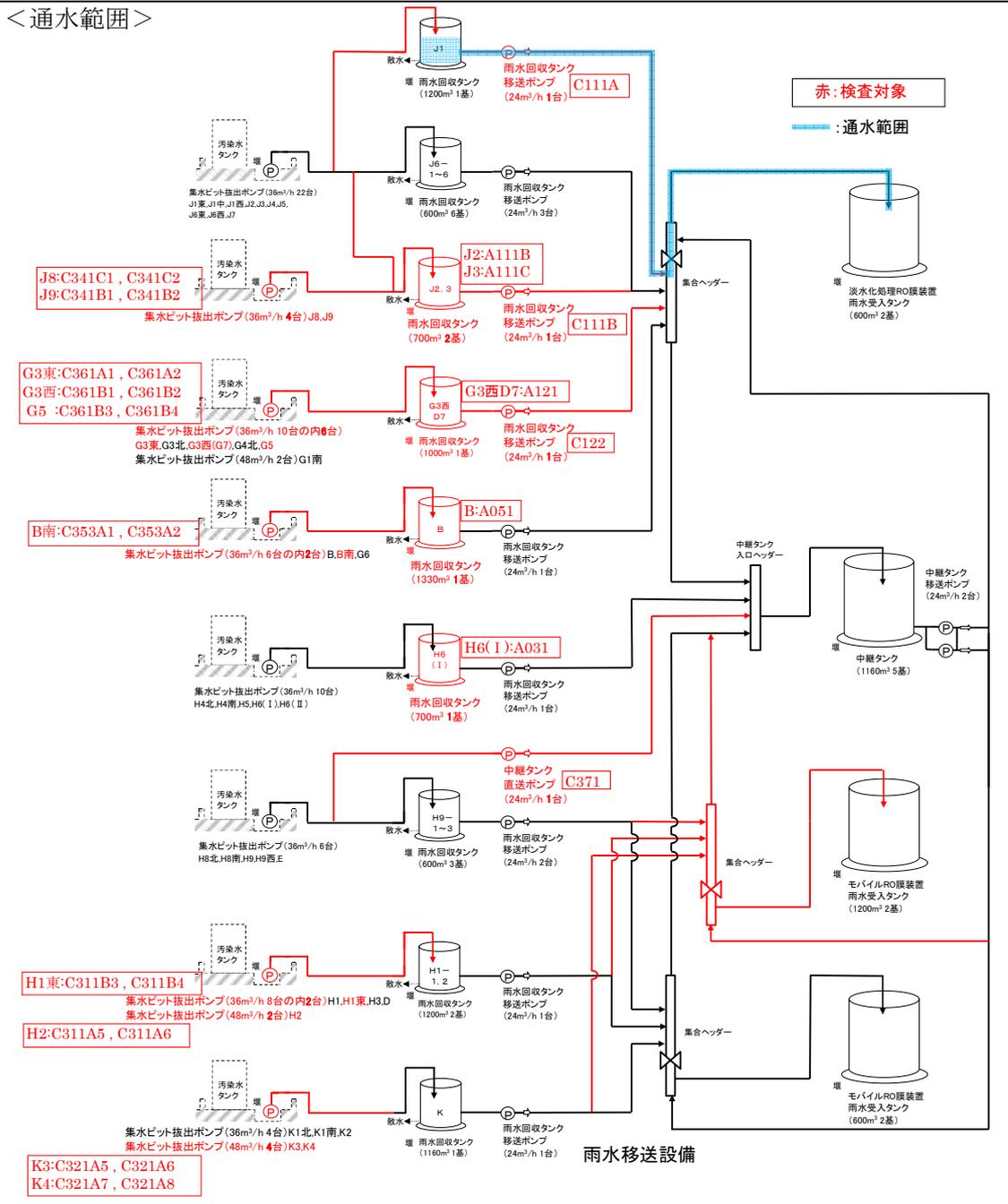
< 通水範囲 >



- (1) J 2 集水ピット抽出ポンプから J 1 雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J 2 集水ピット抽出ポンプ A (C391C1) を起動する。
- (3) J 1 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 2 集水ピット抽出ポンプ A (C391C1) を停止する。

5 J 1 雨水回収タンク→淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク A

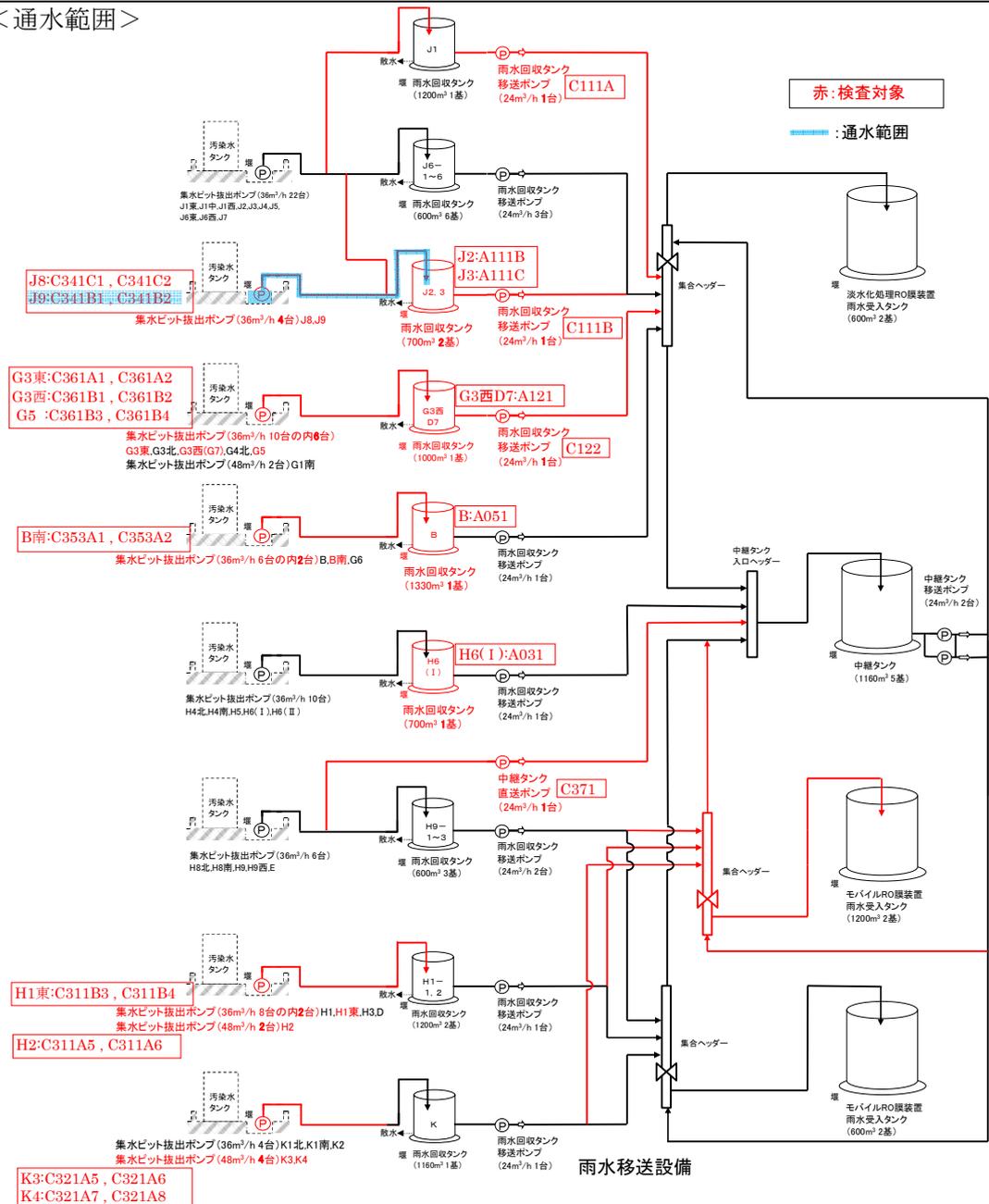
< 通水範囲 >



- (1) J 1 雨水回収タンクから淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク Aまでの系統構成を実施する。
- (2) J 1 雨水回収タンク移送ポンプ (C111A) を起動する。
- (3) 淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク Aへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 1 雨水回収タンク移送ポンプ (C111A) を停止する。

6 J 9 集水ピット抽出ポンプ→J 2 雨水回収タンク

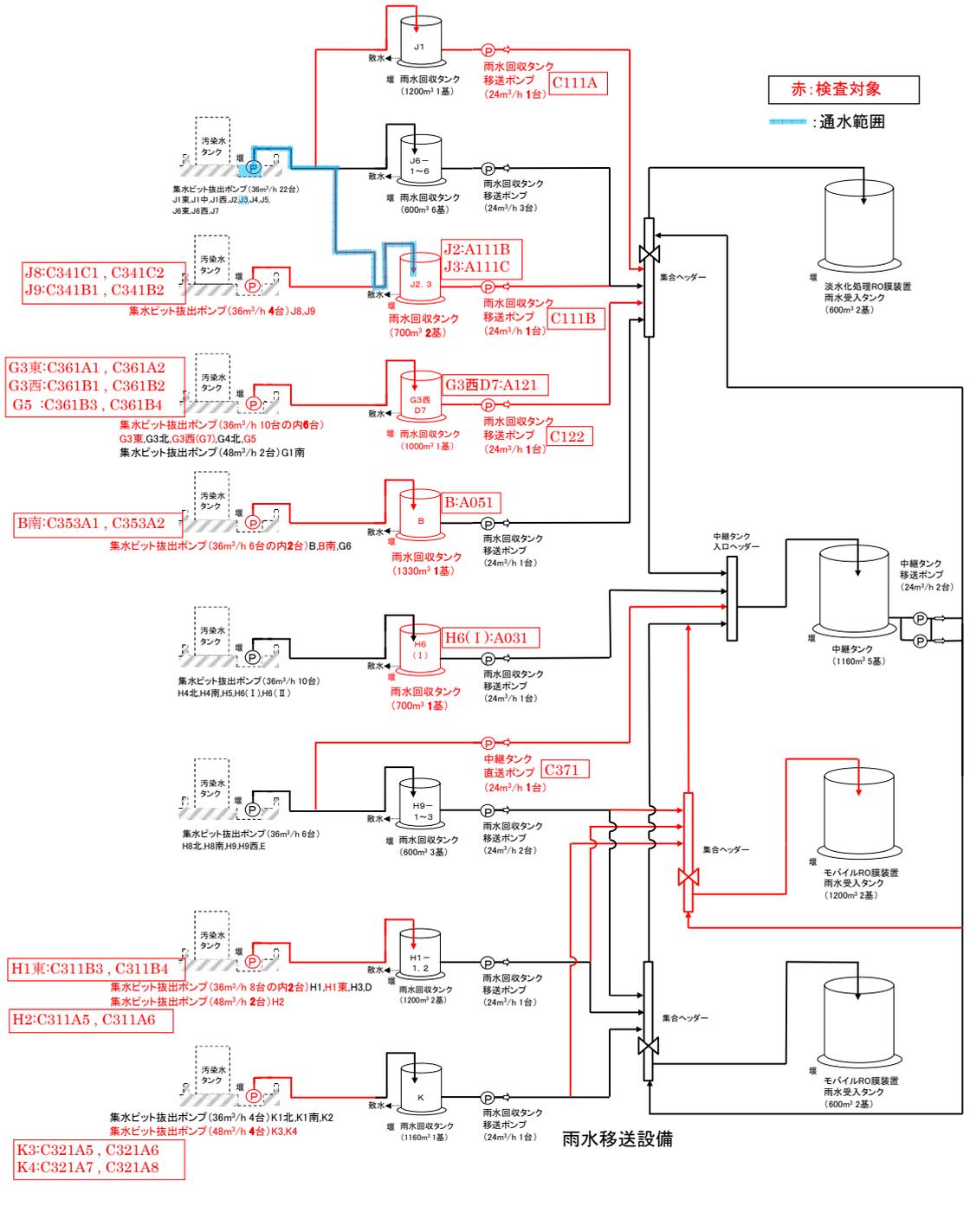
< 通水範囲 >



- (1) J 9 集水ピット抽出ポンプから J 2 雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J 9 集水ピット抽出ポンプ A (C341B1) を起動する。
- (3) J 2 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 9 集水ピット抽出ポンプ A (C341B1) を停止する。
- (5) J 9 集水ピット抽出ポンプ B (C341B2) を起動する。
- (6) J 2 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (7) J 9 集水ピット抽出ポンプ B (C341B2) を停止する。

7 J 3 集水ピット抽出ポンプ→J 2 雨水回収タンク

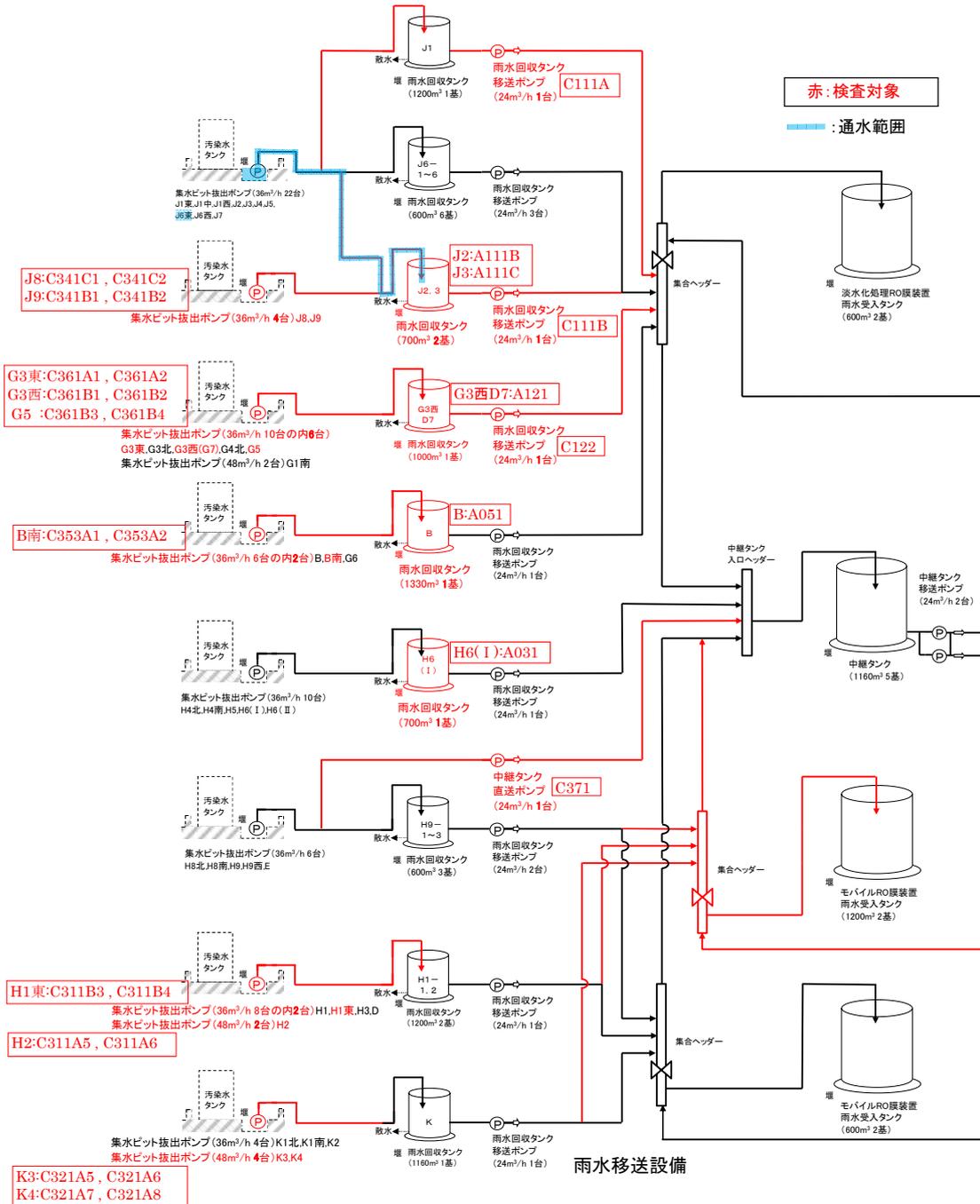
< 通水範囲 >



- (1) J 3 集水ピット抽出ポンプから J 2 雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J 3 集水ピット抽出ポンプ A (C391C5) を起動する。
- (3) J 2 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 3 集水ピット抽出ポンプ A (C391C5) を停止する。

8 J 6 東集水ピット抽出ポンプ→J 2 雨水回収タンク

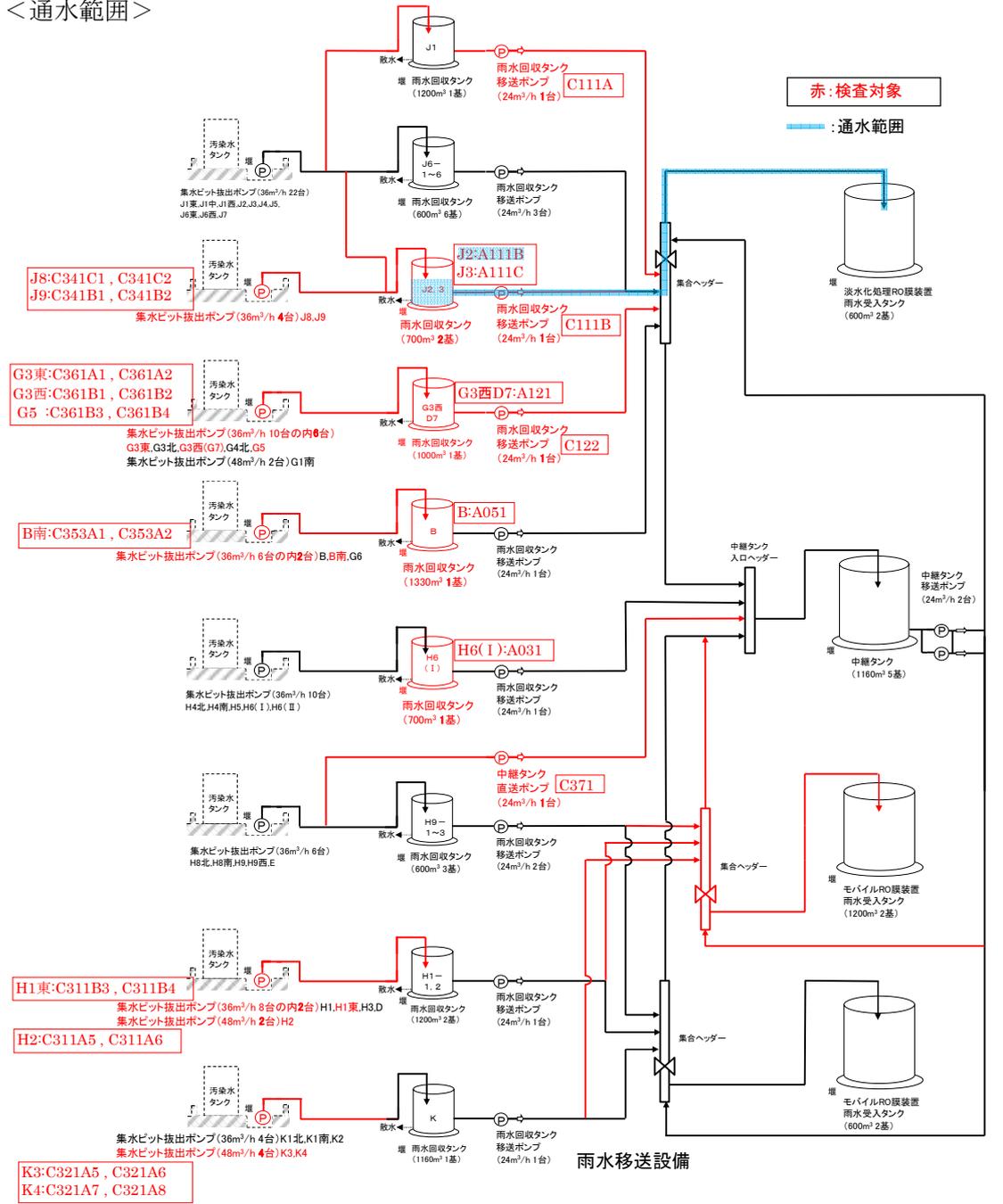
< 通水範囲 >



- (1) J 6 東集水ピット抽出ポンプから J 2 雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J 6 東集水ピット抽出ポンプ (C391D1) を起動する。
- (3) J 2 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 6 東集水ピット抽出ポンプ (C391D1) を停止する。

9 J 2 雨水回収タンク→淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク A

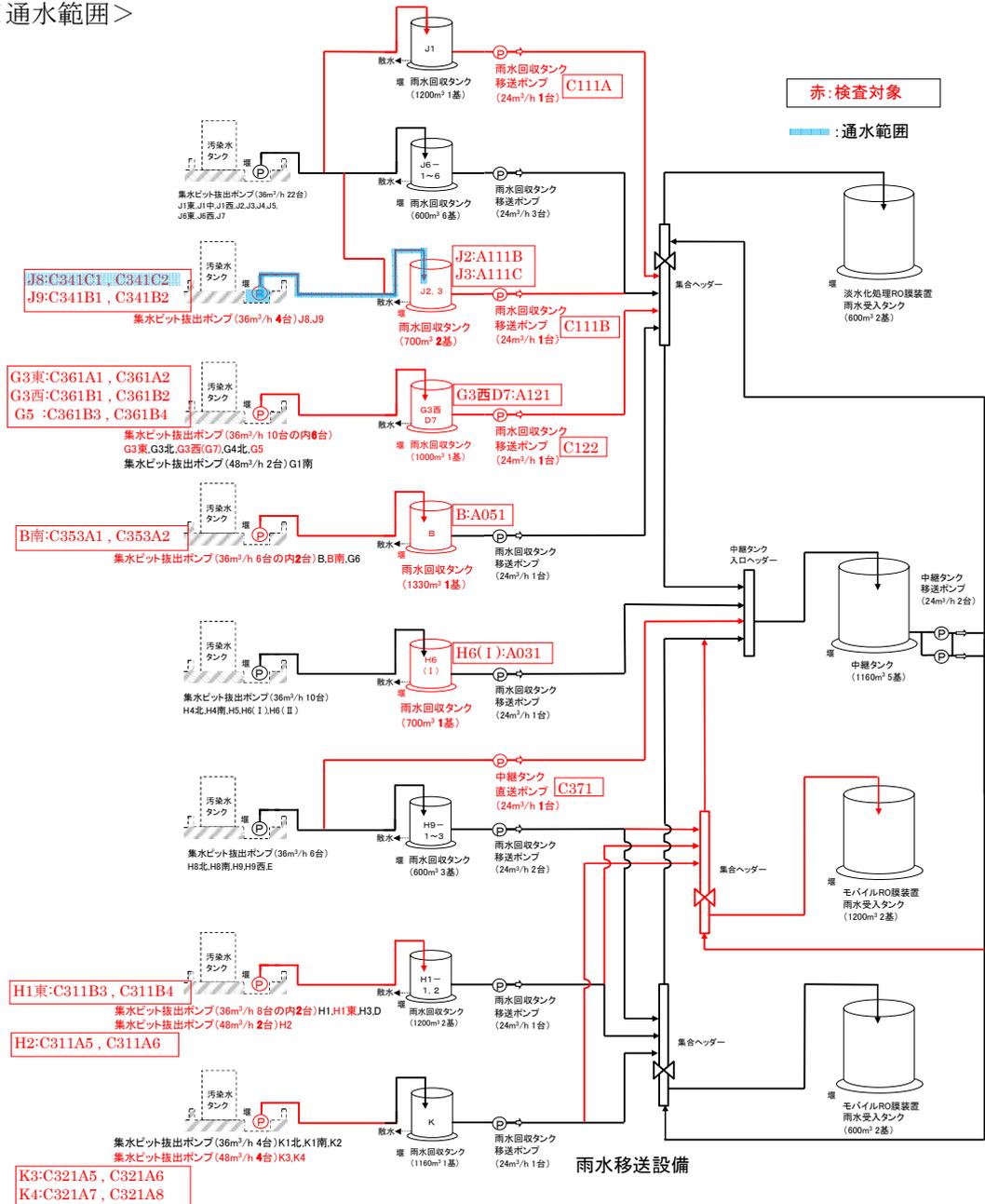
< 通水範囲 >



- | | |
|-----|--|
| (1) | J 2 雨水回収タンクから淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク A までの系統構成を実施する。 |
| (2) | J 2, J 3 雨水回収タンク移送ポンプ(C111B)を起動する。 |
| (3) | 淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク Aへ通水でき, かつ, 漏えいのないことを確認する。 |
| (4) | J 2, J 3 雨水回収タンク移送ポンプ(C111B)を停止する。 |

10 J8集水ピット抽出ポンプ→J3雨水回収タンク

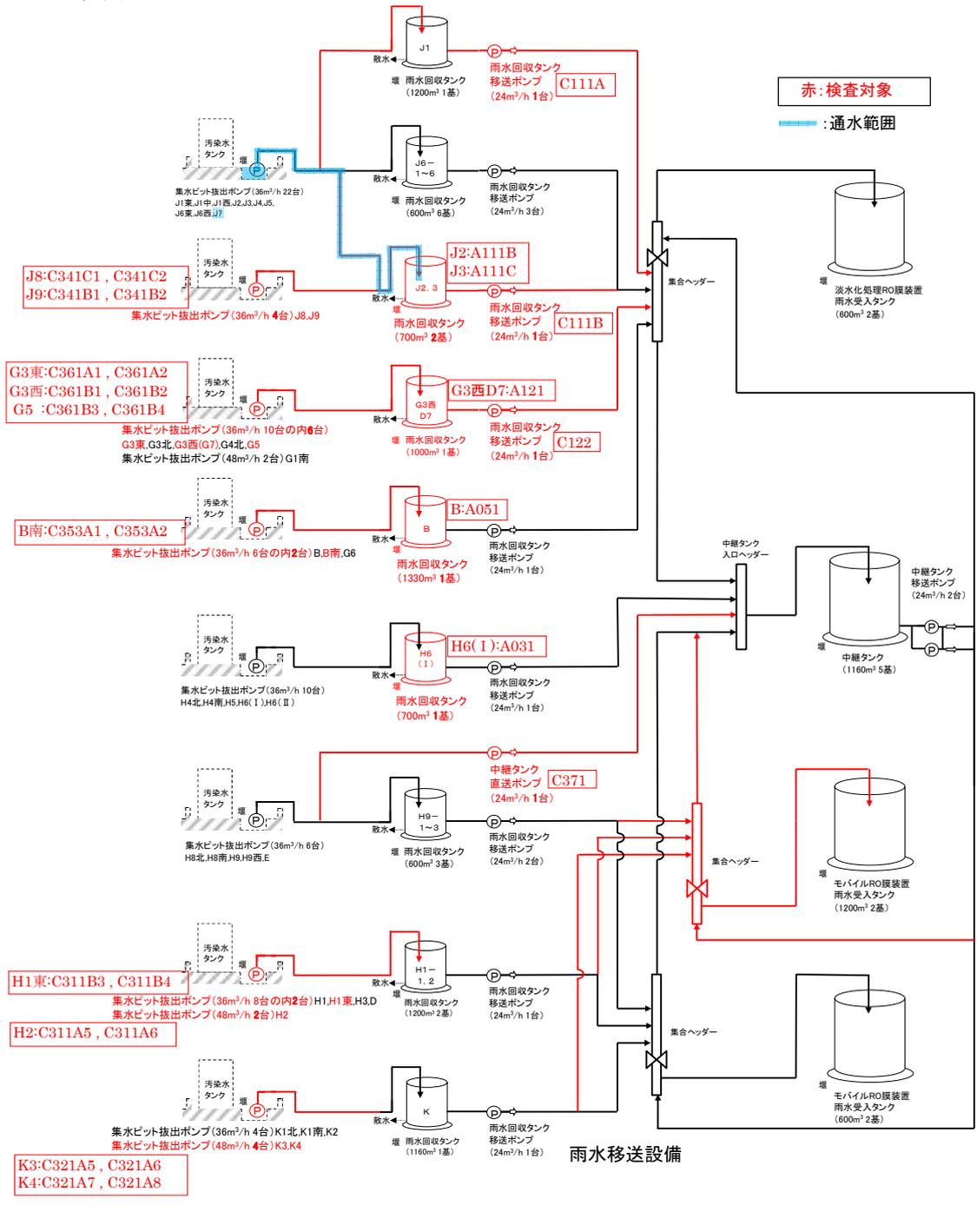
<通水範囲>



- (1) J8集水ピット抽出ポンプからJ3雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J8集水ピット抽出ポンプA(C341C1)を起動する。
- (3) J3雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J8集水ピット抽出ポンプA(C341C1)を停止する。
- (5) J8集水ピット抽出ポンプB(C341C2)を起動する。
- (6) J3雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (7) J8集水ピット抽出ポンプB(C341C2)を停止する。

1 1 J 7集水ピット抽出ポンプ→J 3 雨水回収タンク

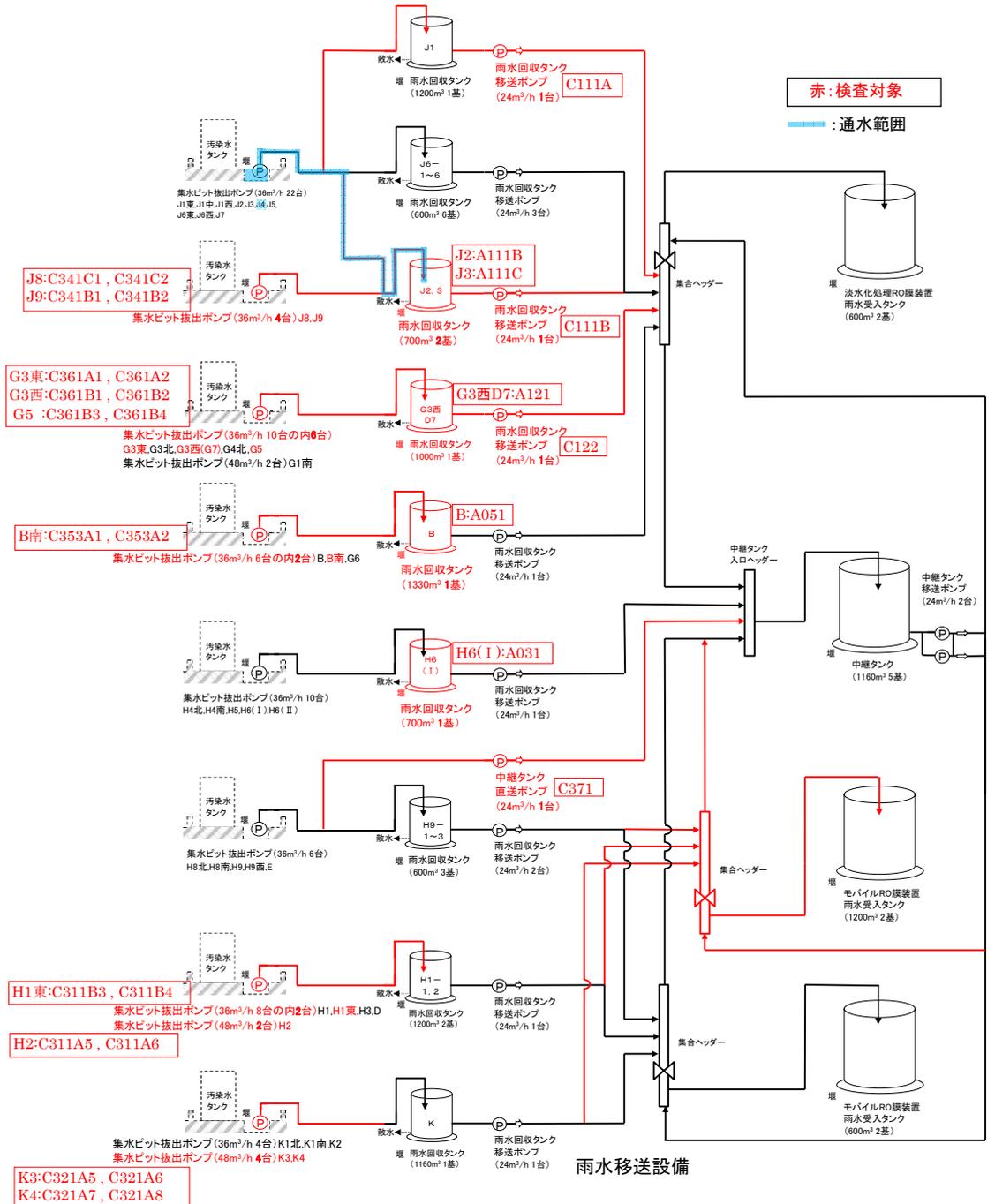
< 通水範囲 >



- (1) J 7 集水ピット抽出ポンプから J 3 雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J 7 集水ピット抽出ポンプ A (C391E1) を起動する。
- (3) J 3 雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 7 集水ピット抽出ポンプ A (C391E1) を停止する。

1 2 J 4集水ピット抽出ポンプ→J 3雨水回収タンク

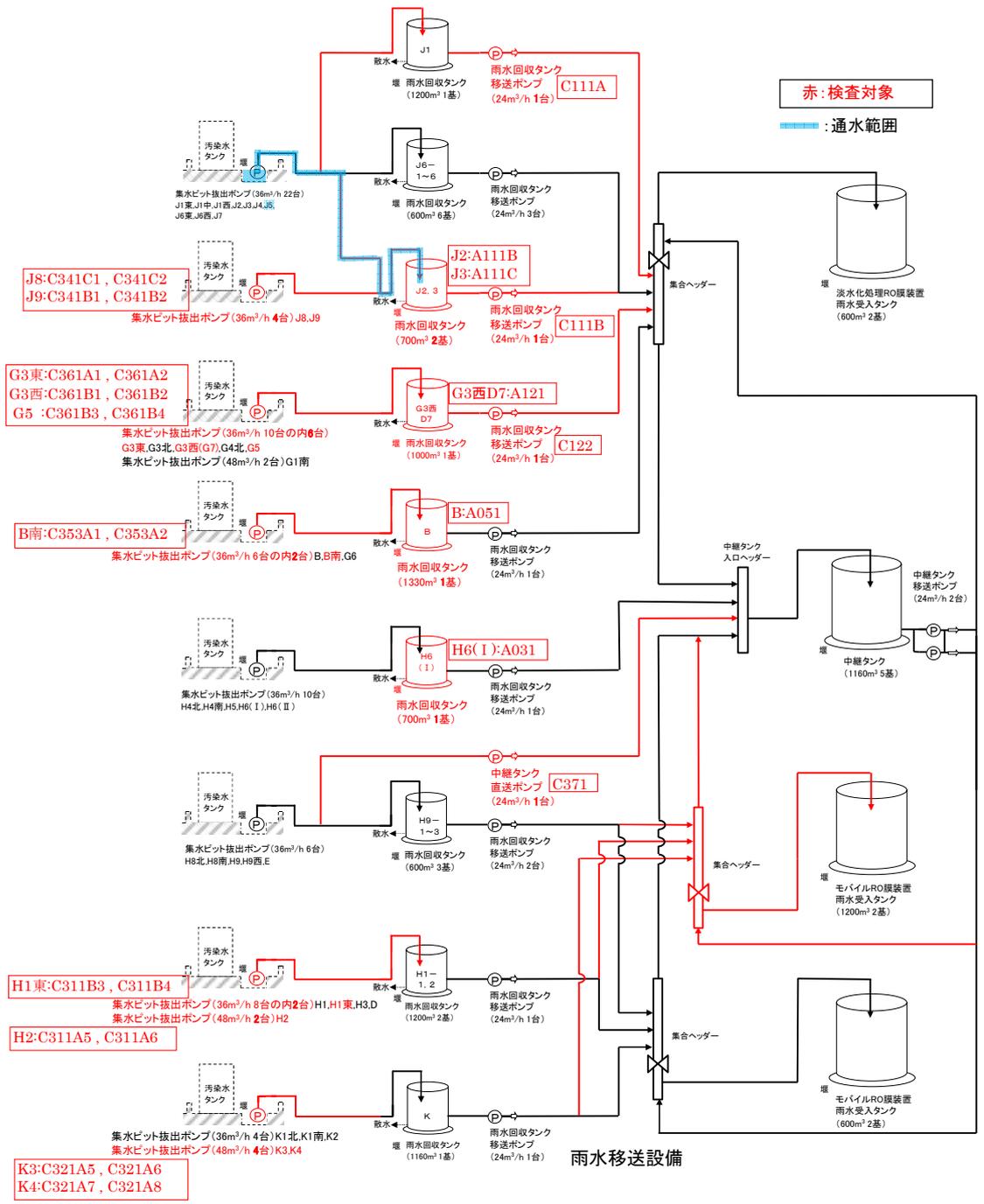
< 通水範囲 >



- (1) J 4集水ピット抽出ポンプからJ 3雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J 4集水ピット抽出ポンプA (C391F1) を起動する。
- (3) J 3雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J 4集水ピット抽出ポンプA (C391F1) を停止する。

13 J5集水ピット抽出ポンプ→J3雨水回収タンク

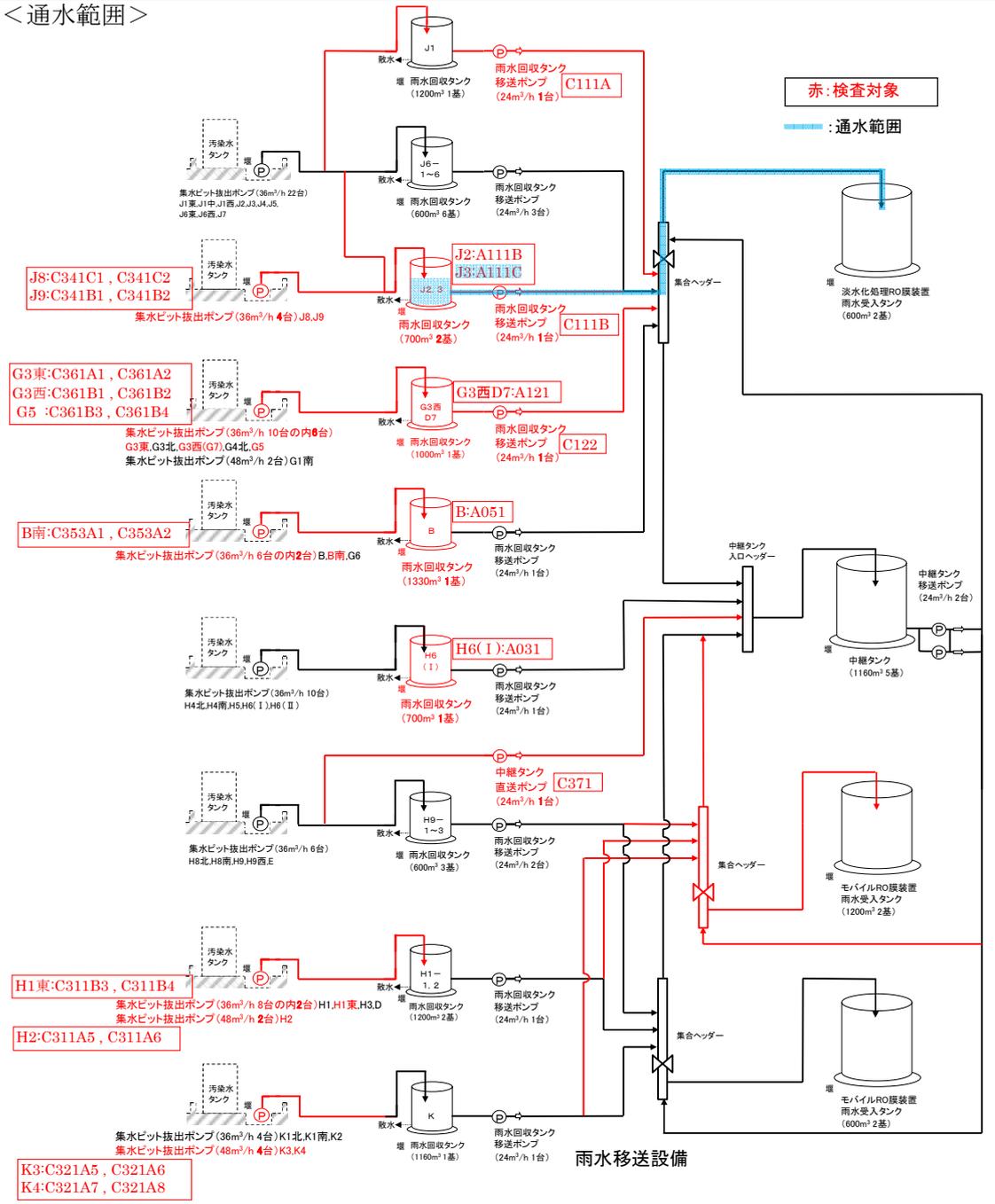
< 通水範囲 >



- (1) J5集水ピット抽出ポンプからJ3雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) J5集水ピット抽出ポンプA (C391D3)を起動する。
- (3) J3雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) J5集水ピット抽出ポンプA (C391D3)を停止する。

1 4 J 3 雨水回収タンク→淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク A

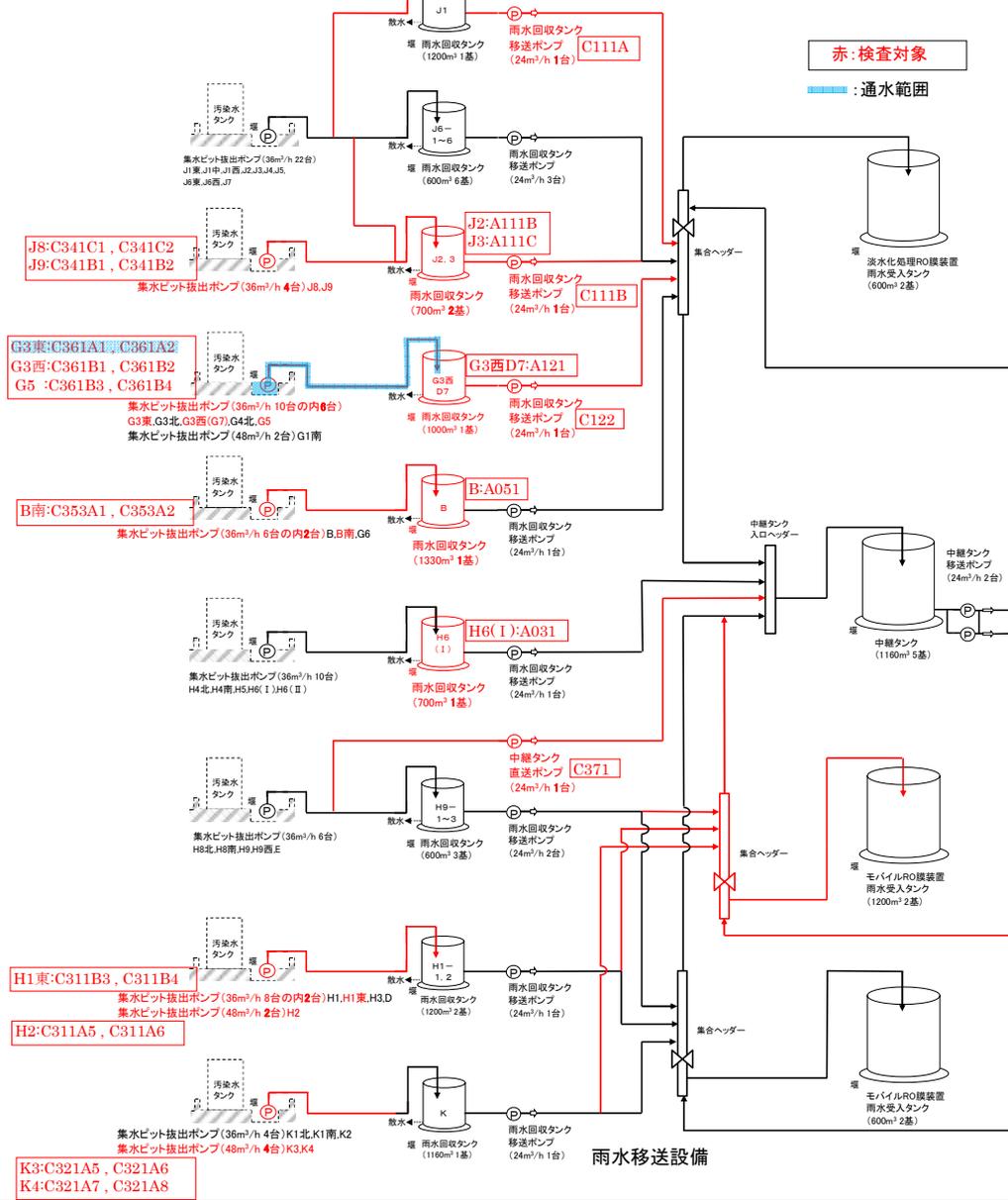
< 通水範囲 >



- (1) J 3 雨水回収タンクから淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク A までの系統構成を実施する。
- (2) J 2, J 3 雨水回収タンク移送ポンプ(C111B)を起動する。
- (3) 淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク Aへ通水でき, かつ, 漏えいのないことを確認する。
- (4) J 2, J 3 雨水回収タンク移送ポンプ(C111B)を停止する。

15 G3東集水ピット抽出ポンプ→G3西D7雨水回収タンク

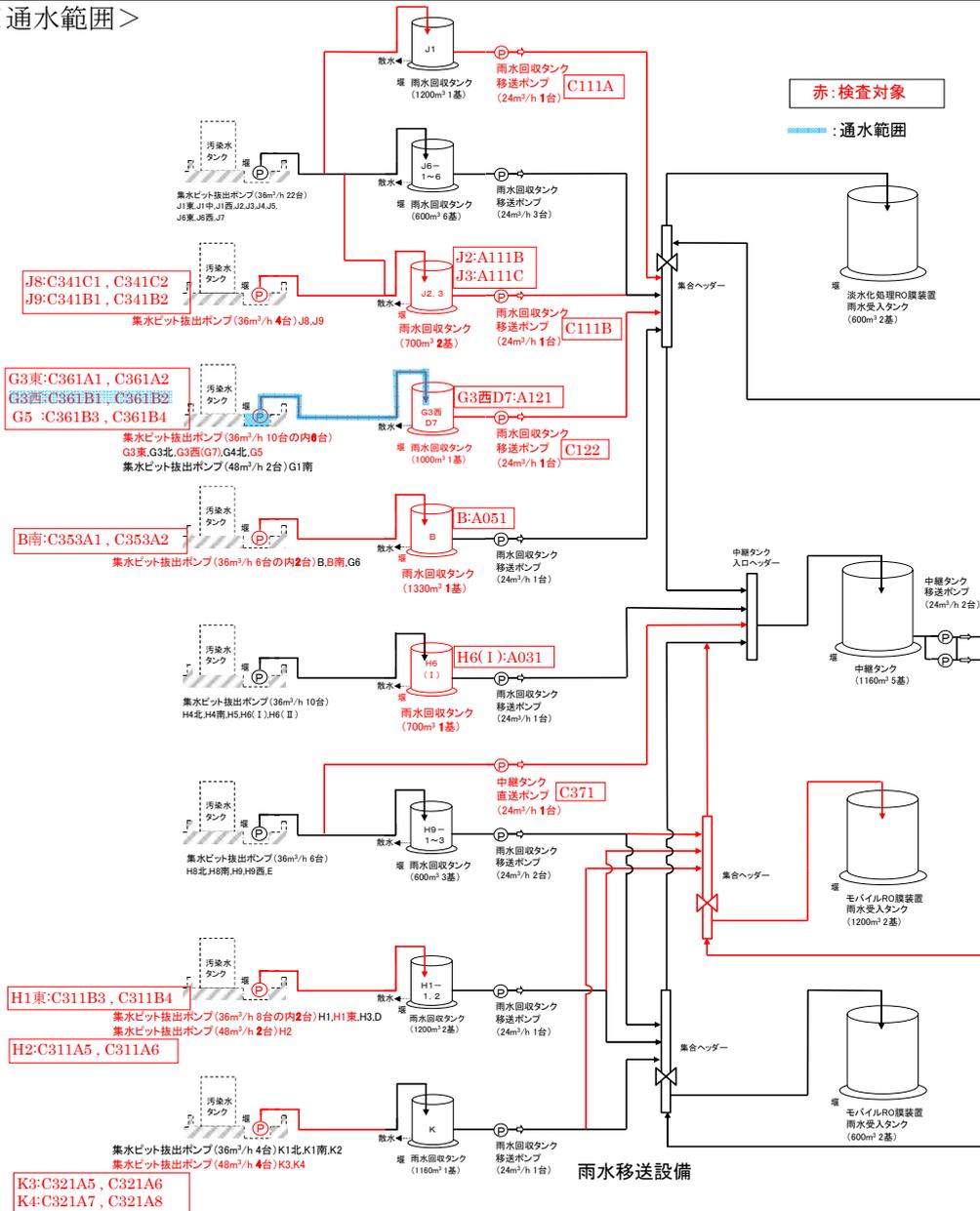
<通水範囲>



- | | |
|-----|--|
| (1) | G3東集水ピット抽出ポンプからG3西D7雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。 |
| (2) | G3東集水ピット抽出ポンプA(C361A1)を起動する。 |
| (3) | G3西D7雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (4) | G3東集水ピット抽出ポンプA(C361A1)を停止する。 |
| (5) | G3東集水ピット抽出ポンプB(C361A2)を起動する。 |
| (6) | G3西D7雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (7) | G3東集水ピット抽出ポンプB(C361A2)を停止する。 |

16 G3西集水ピット抽出ポンプ→G3西D7雨水回収タンク

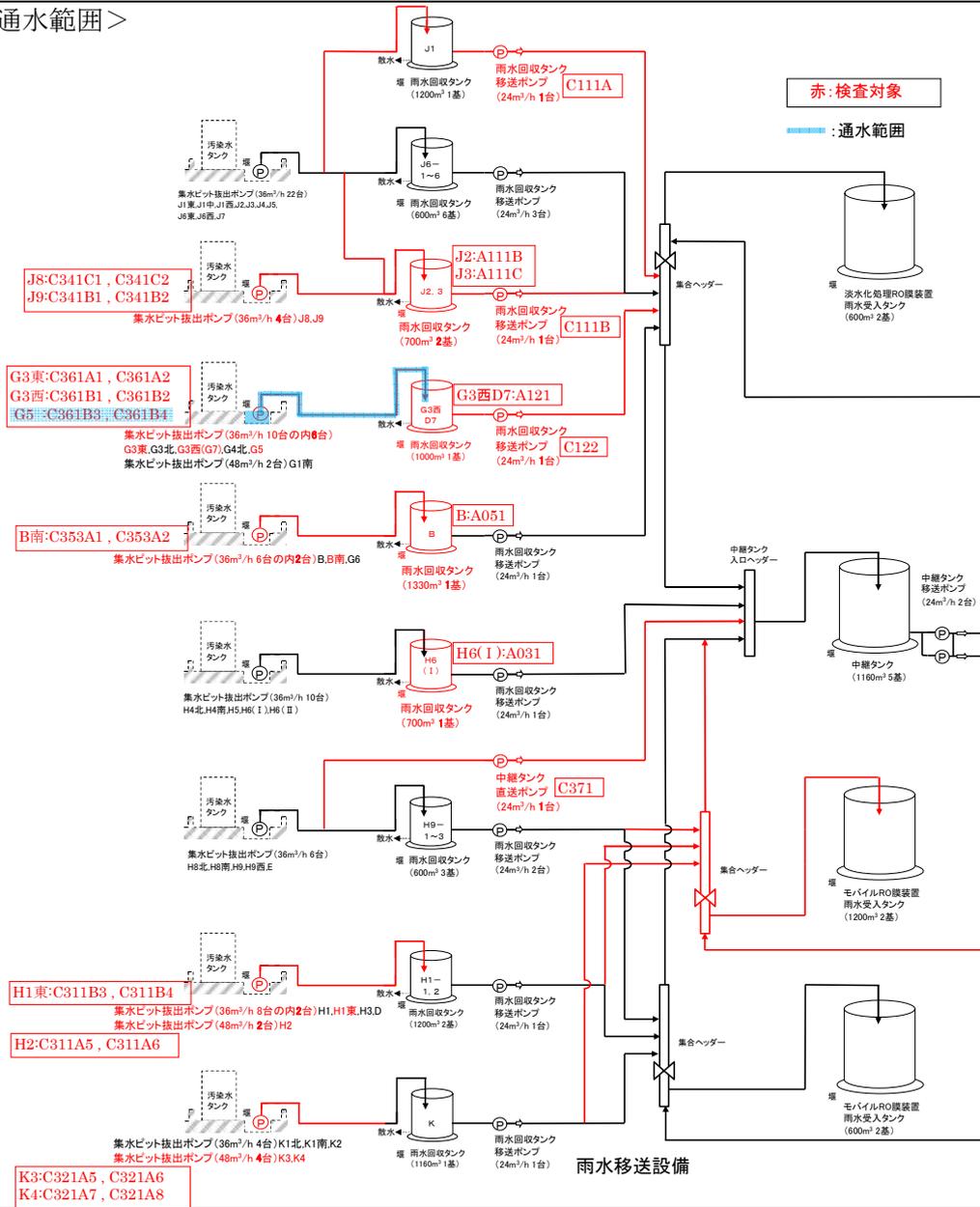
<通水範囲>



- (1) G3西集水ピット抽出ポンプからG3西D7雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) G3西集水ピット抽出ポンプA(C361B1)を起動する。
- (3) G3西D7雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) G3西集水ピット抽出ポンプA(C361B1)を停止する。
- (5) G3西集水ピット抽出ポンプB(C361B2)を起動する。
- (6) G3西D7雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (7) G3西集水ピット抽出ポンプB(C361B2)を停止する。

17 G5集水ピット抽出ポンプ→G3西D7雨水回収タンク

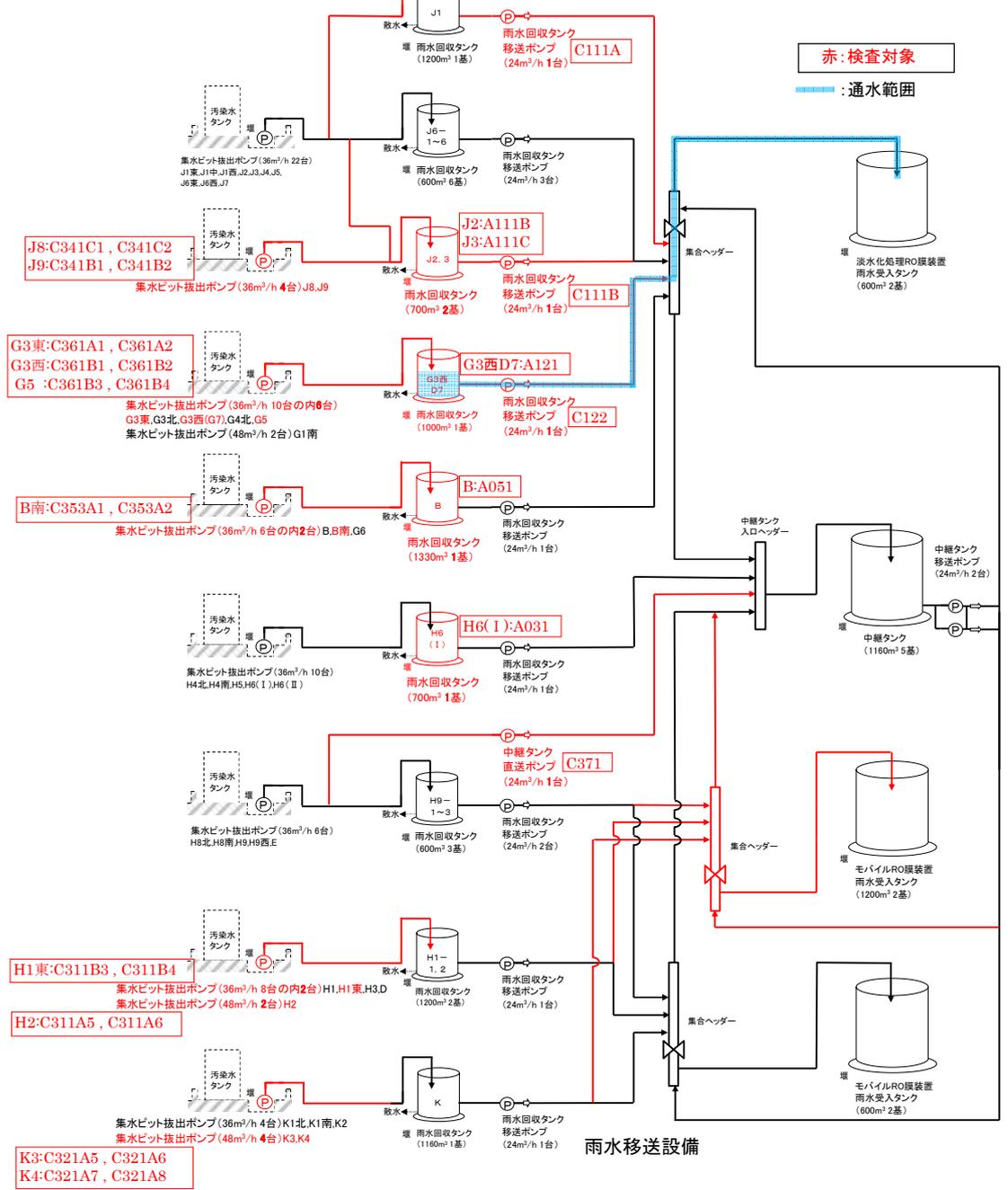
<通水範囲>



- (1) G5集水ピット抽出ポンプからG3西D7雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) G5集水ピット抽出ポンプA(C361B3)を起動する。
- (3) G3西D7雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) G5集水ピット抽出ポンプA(C361B3)を停止する。
- (5) G5集水ピット抽出ポンプB(C361B4)を起動する。
- (6) G3西D7雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (7) G5集水ピット抽出ポンプB(C361B4)を停止する。

1 8 G 3 西 D 7 雨水回収タンク→淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク A

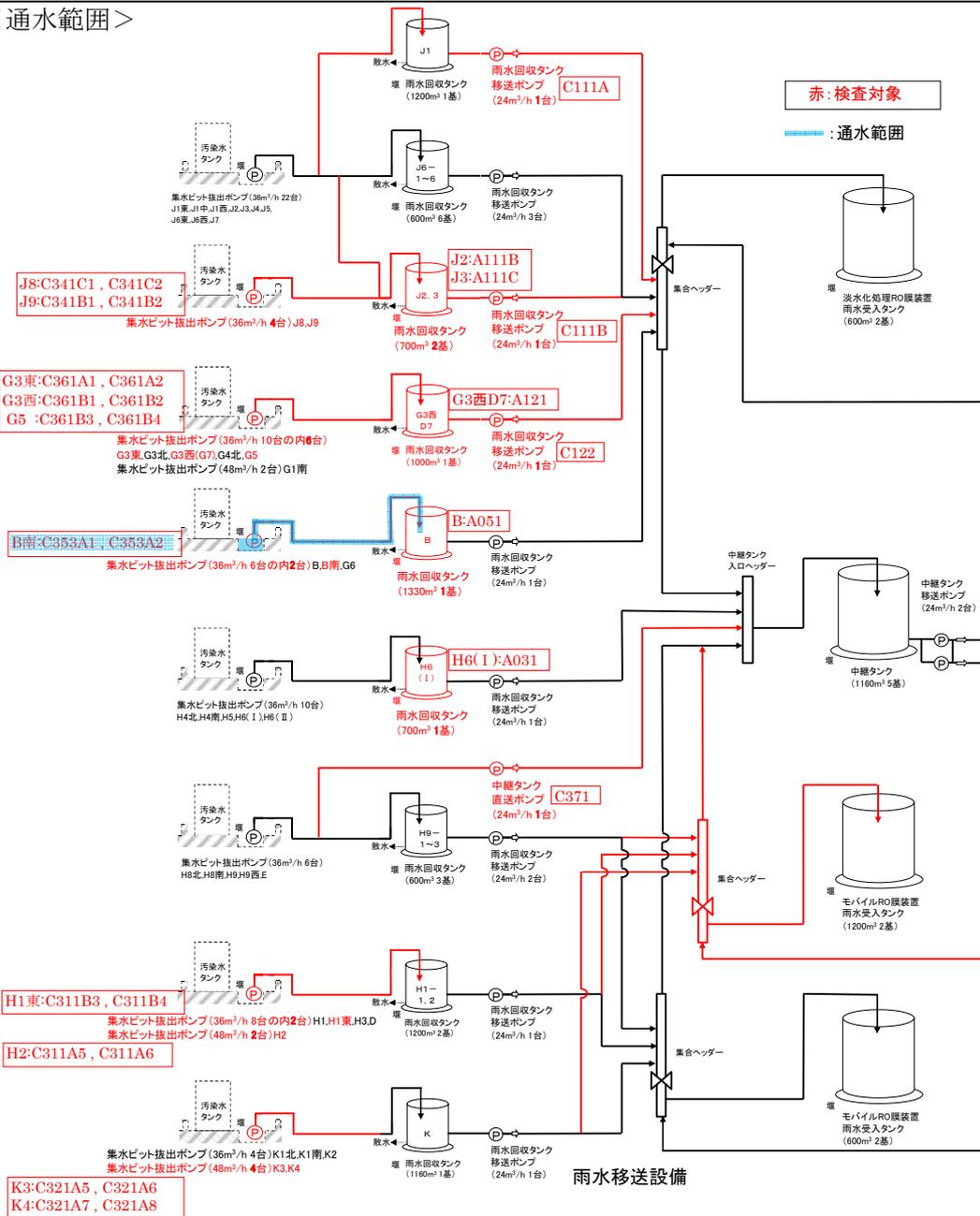
< 通水範囲 >



- (1) G 3 西 D 7 雨水回収タンクから淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク A までの系統構成を実施する。
- (2) G 3 西 D 7 雨水回収タンク移送ポンプ(C122)を起動する。
- (3) 淡水化処理RO膜装置雨水受入タンク Aへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) G 3 西 D 7 雨水回収タンク移送ポンプ(C122) を停止する。

1 9 B南集水ピット抽出ポンプ→B雨水回収タンク

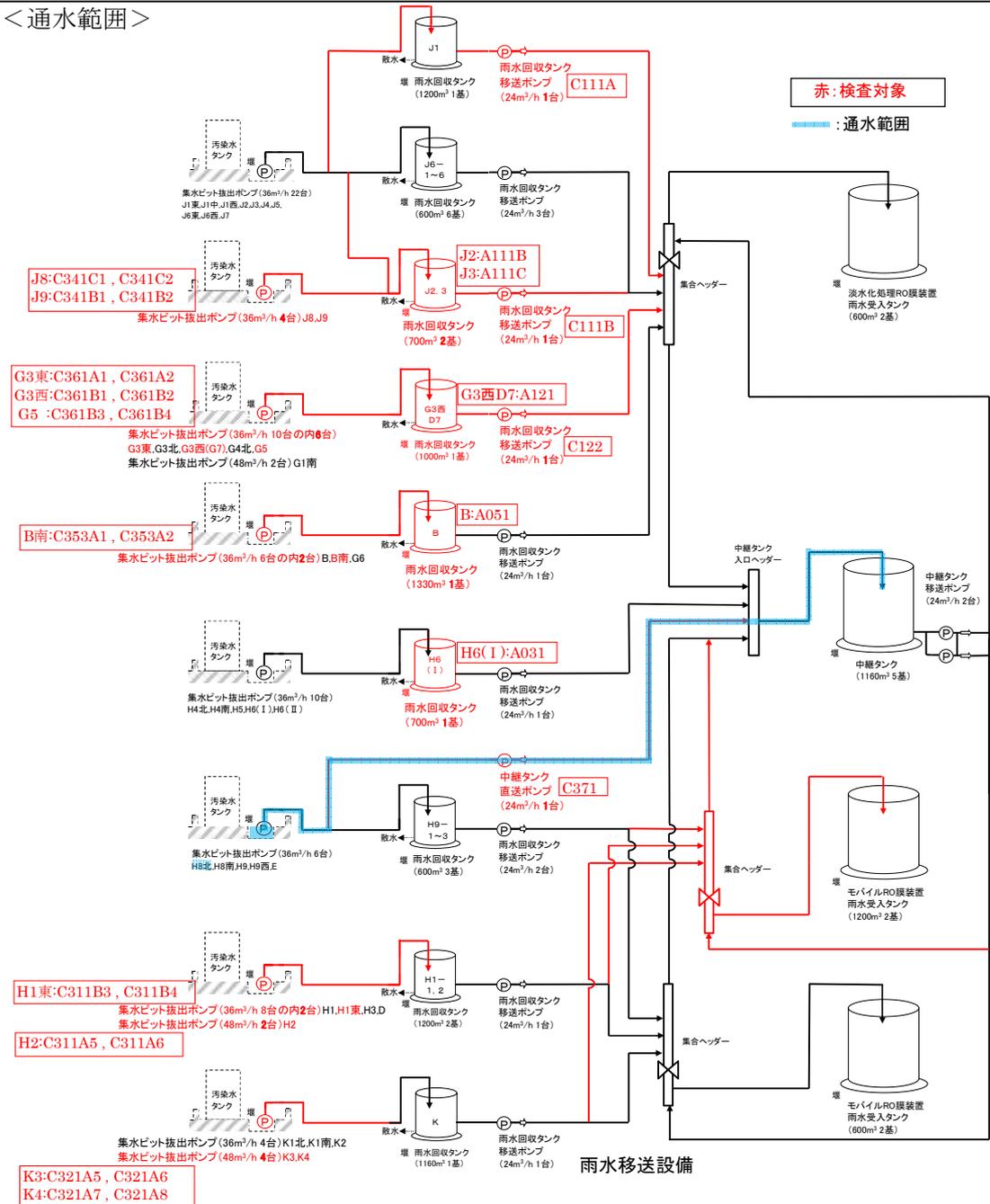
< 通水範囲 >



- (1) B南集水ピット抽出ポンプからB雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) B南集水ピット抽出ポンプA (C353A1)を起動する。
- (3) B雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) B南集水ピット抽出ポンプA (C353A1)を停止する。
- (5) B南集水ピット抽出ポンプB (C353A2)を起動する。
- (6) B雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (7) B南集水ピット抽出ポンプB (C353A2)を停止する。

20 H8北集水ピット抽出ポンプ→中継タンクA

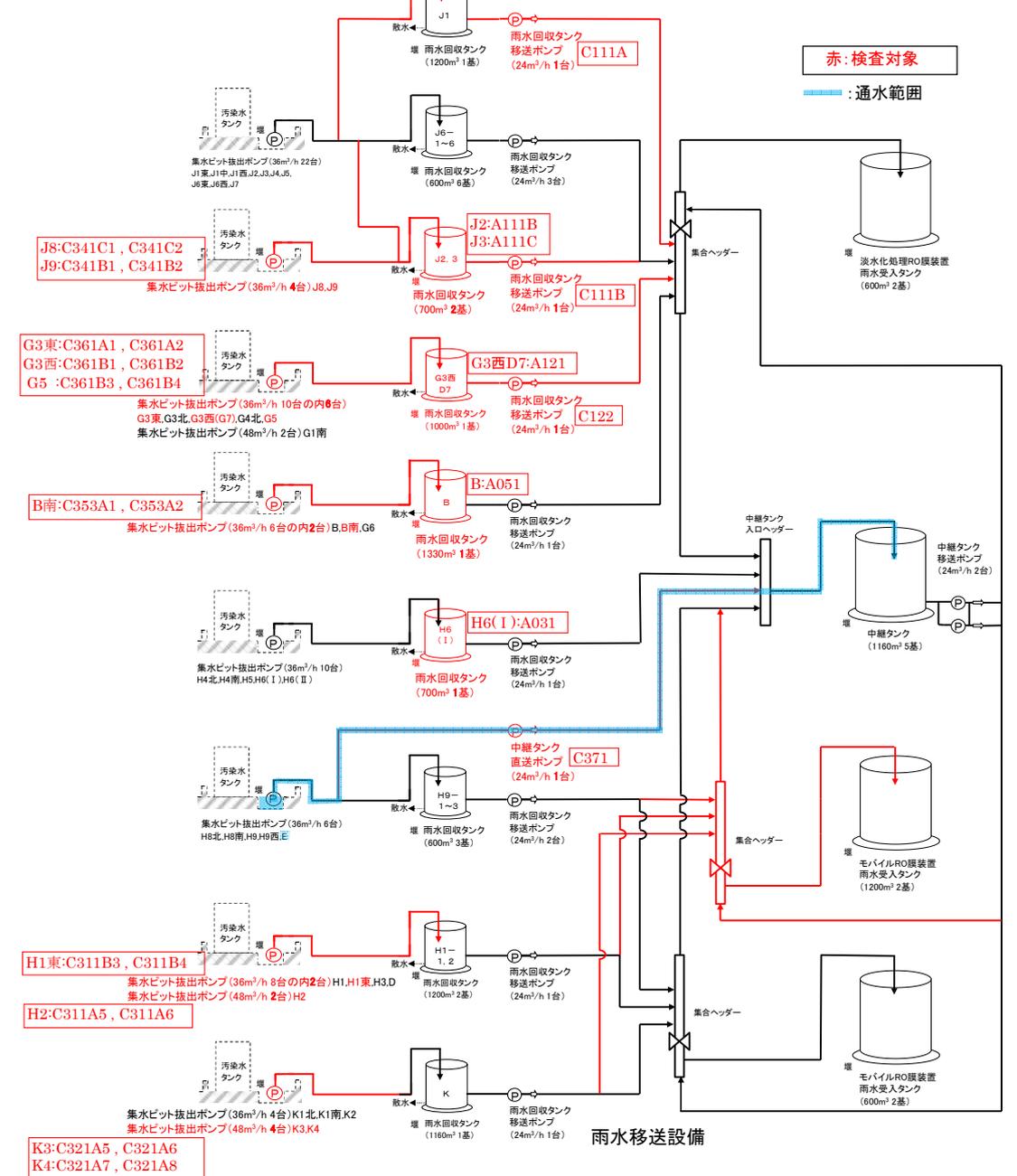
< 通水範囲 >



- (1) H8北集水ピット抽出ポンプから中継タンクAまでの系統構成を実施する。
- (2) H8北集水ピット抽出ポンプ(C301B1)を起動する。
- (3) 中継タンク直送ポンプ(C371)を起動する。
- (4) 中継タンクAへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (5) 中継タンク直送ポンプ(C371)を停止する。
- (6) H8北集水ピット抽出ポンプ(C301B1)を停止する。

2 2 E集水ピット抽出ポンプ→中継タンク A

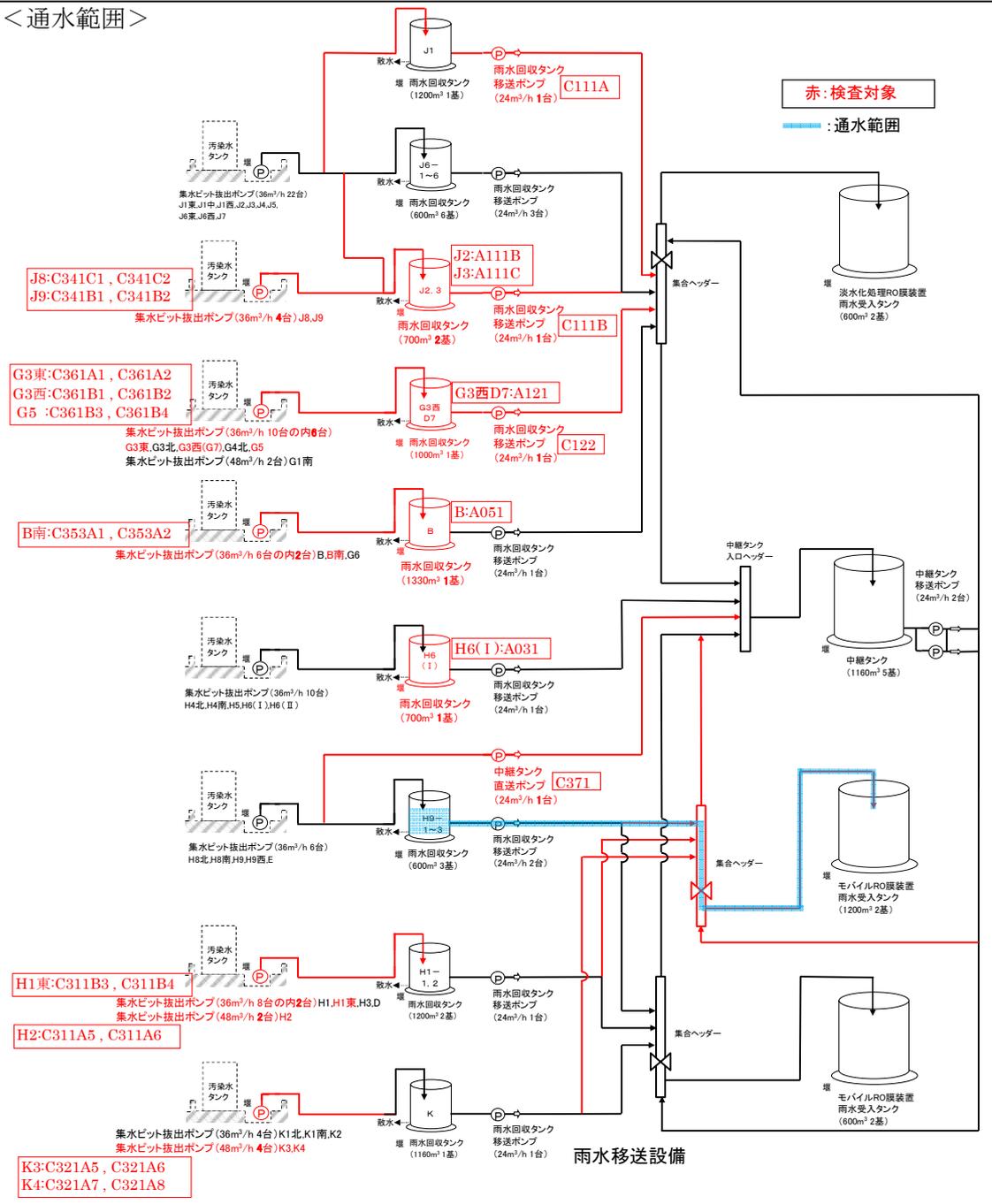
< 通水範囲 >



- (1) E集水ピット抽出ポンプから中継タンク A までの系統構成を実施する。
- (2) E集水ピット抽出ポンプ A (C301C1) を起動する。
- (3) 中継タンク直送ポンプ (C371) を起動する。
- (4) 中継タンク A へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (5) 中継タンク直送ポンプ (C371) を停止する。
- (6) E集水ピット抽出ポンプ A (C301C1) を停止する。

2 3 H 9 - 2 雨水回収タンク→モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³)

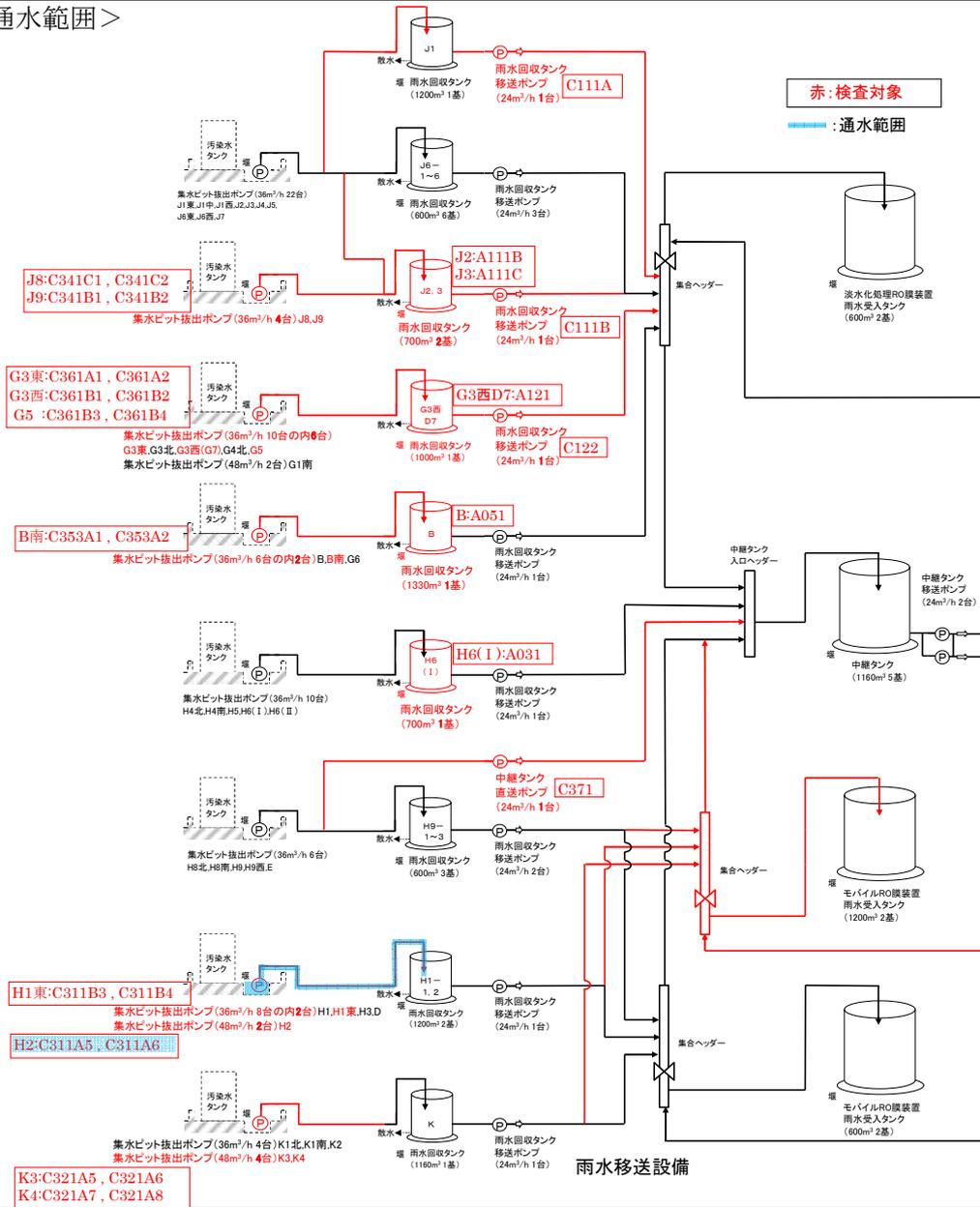
< 通水範囲 >



- (1) H 9 - 2 雨水回収タンクからモバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³) までの系統構成を実施する。
- (2) H 9 雨水回収タンク移送ポンプ B (C001B) を起動する。
- (3) モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) H 9 雨水回収タンク移送ポンプ B (C001B) を停止する。

25 H2集水ピット抽出ポンプ→H1-1雨水回収タンク

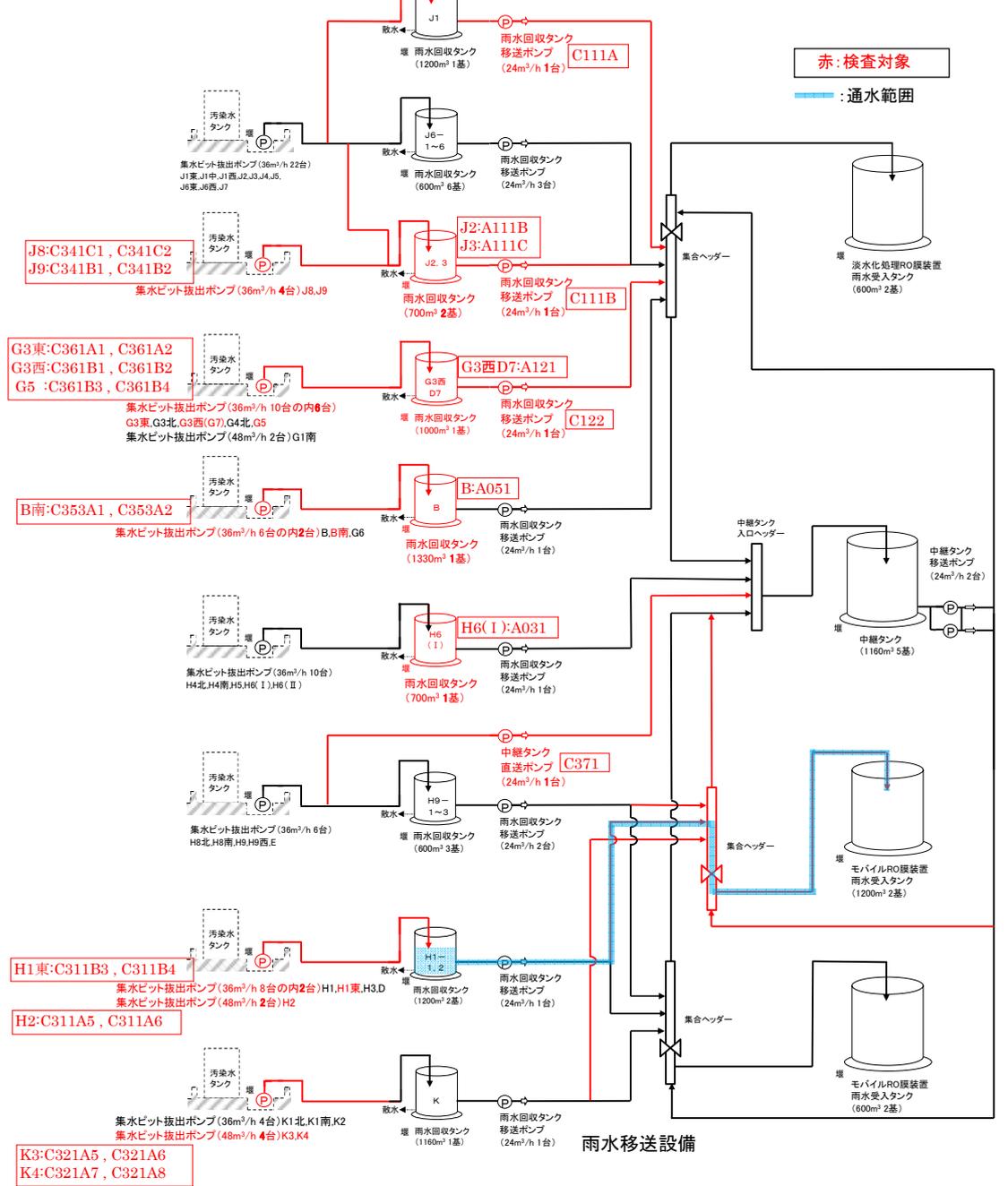
<通水範囲>



- | | |
|-----|--|
| (1) | H2集水ピット抽出ポンプからH1-1雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。 |
| (2) | H2集水ピット抽出ポンプA (C311A5)を起動する。 |
| (3) | H1-1雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (4) | H2集水ピット抽出ポンプA (C311A5)を停止する。 |
| (5) | H2集水ピット抽出ポンプB (C311A6)を起動する。 |
| (6) | H1-1雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。 |
| (7) | H2集水ピット抽出ポンプB (C311A6)を停止する。 |

26 H1-1 雨水回収タンク→モバイルRO膜装置雨水受入タンク B (1200m³)

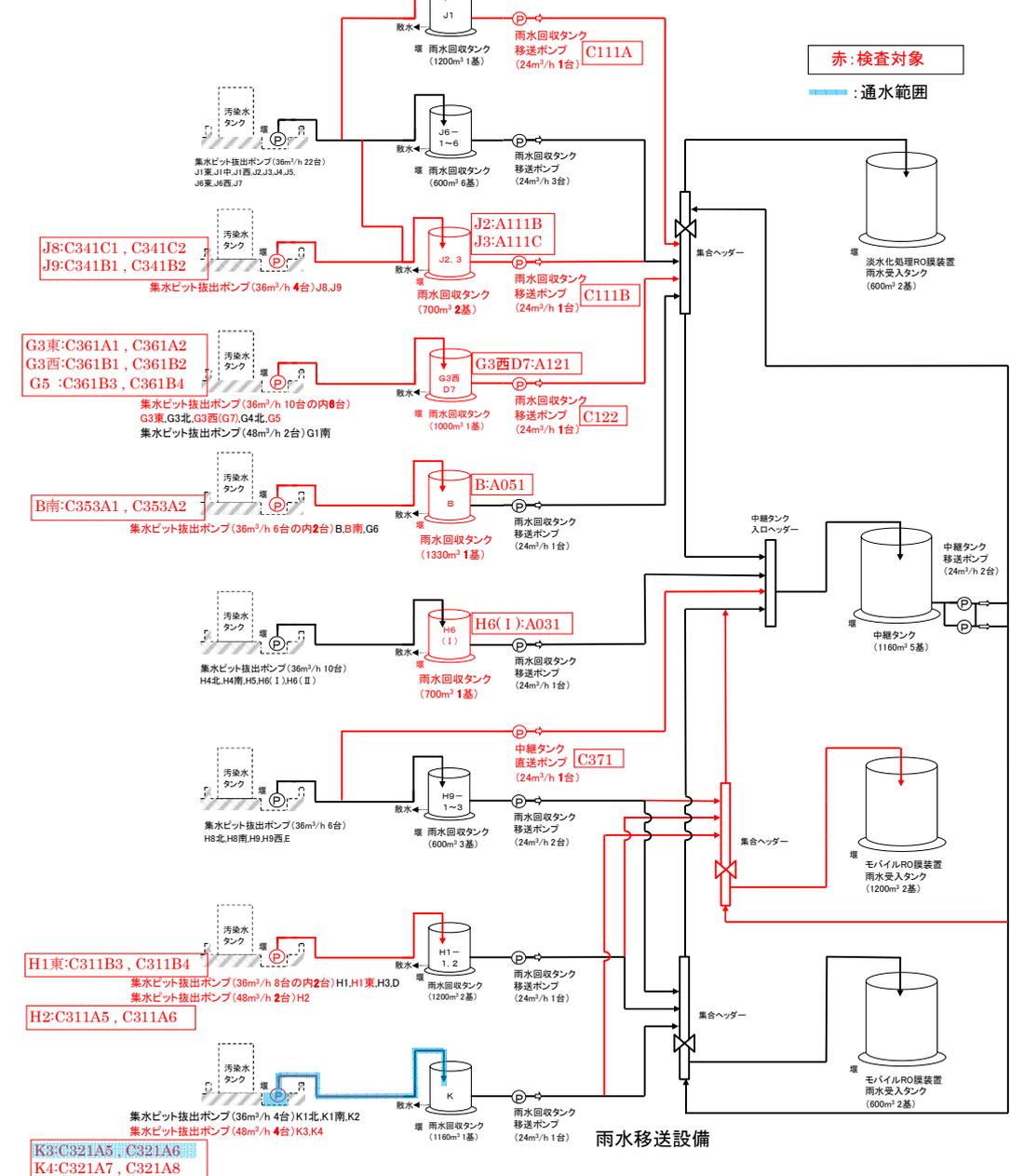
< 通水範囲 >



- (1) H1-1 雨水回収タンクからモバイルRO膜装置雨水受入タンク B (1200m³) までの系統構成を実施する。
- (2) H1 雨水回収タンク移送ポンプ (C011) を起動する。
- (3) モバイルRO膜装置雨水受入タンク B (1200m³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) H1 雨水回収タンク移送ポンプ (C011) を停止する。

2 7 K 3集水ピット抽出ポンプ→K雨水回収タンク

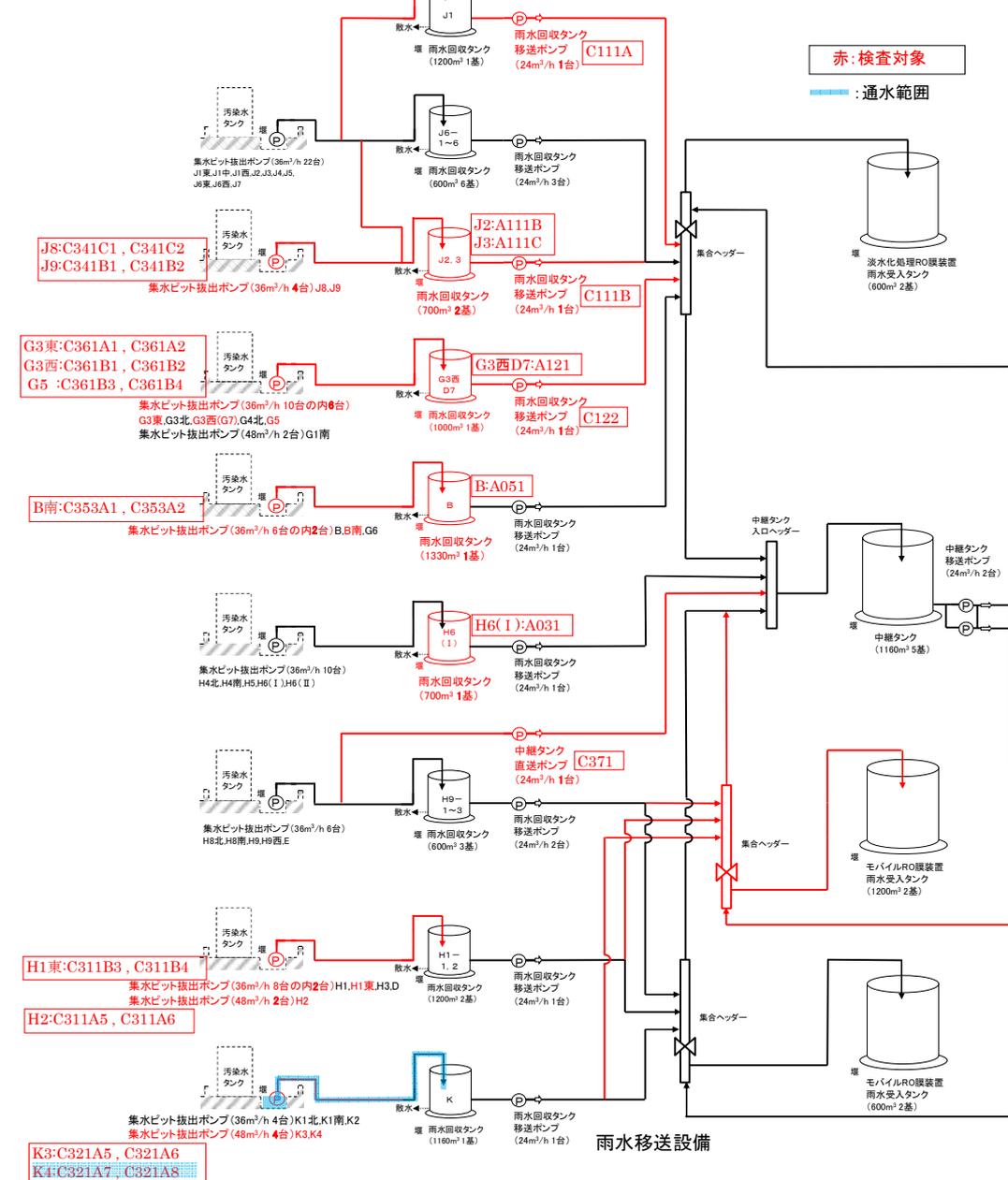
<通水範囲>



- (1) K 3集水ピット抽出ポンプからK雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) K 3集水ピット抽出ポンプA (C321A5)を起動する。
- (3) K雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) K 3集水ピット抽出ポンプA (C321A5)を停止する。
- (5) K 3集水ピット抽出ポンプB (C321A6)を起動する。
- (6) K雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (7) K 3集水ピット抽出ポンプB (C321A6)を停止する。

2 8 K 4集水ピット抽出ポンプ→K雨水回収タンク

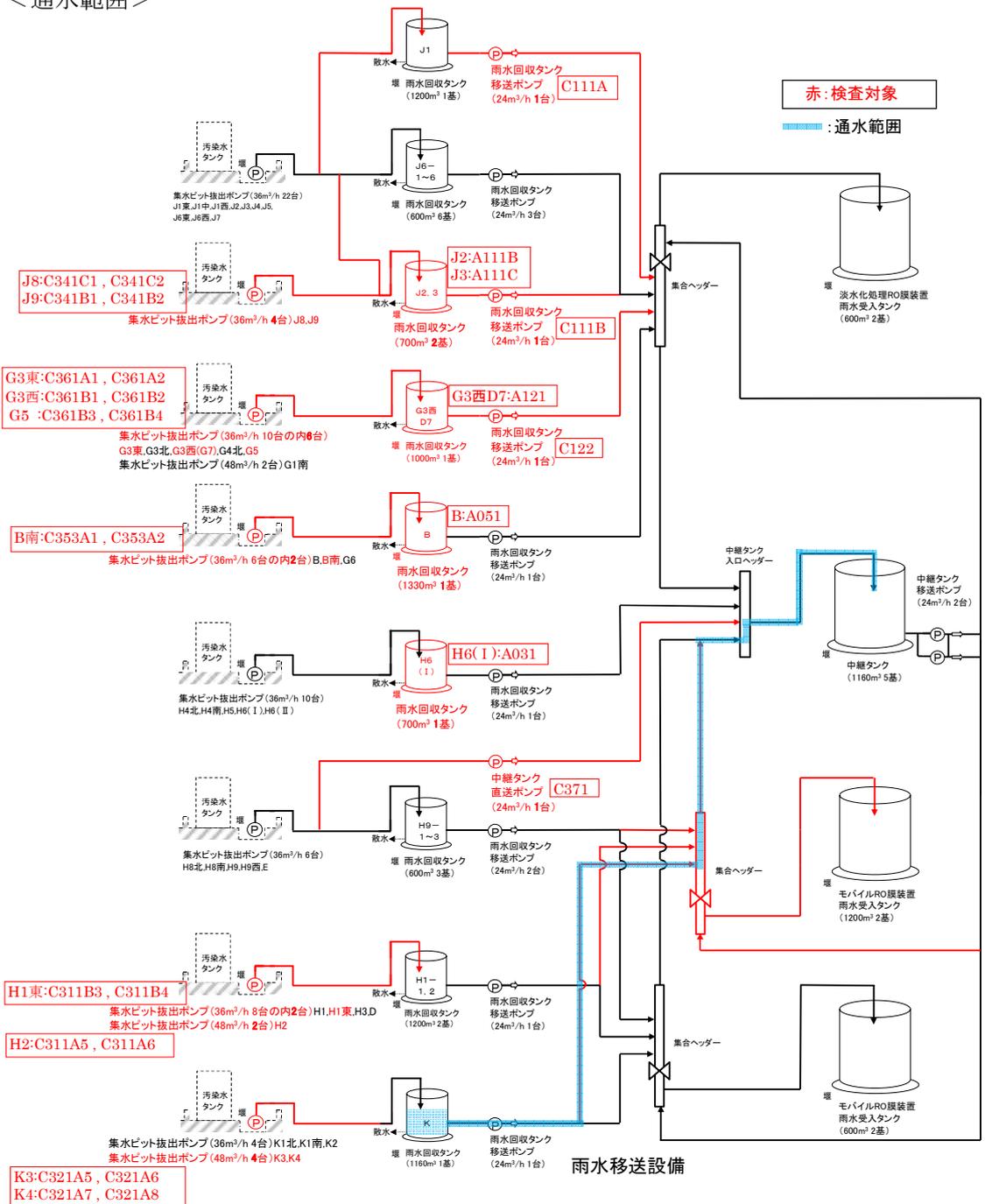
< 通水範囲 >



- (1) K 4集水ピット抽出ポンプからK雨水回収タンクまでの系統構成を実施する。
- (2) K 4集水ピット抽出ポンプA (C321A7)を起動する。
- (3) K雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) K 4集水ピット抽出ポンプA (C321A7)を停止する。
- (5) K 4集水ピット抽出ポンプB (C321A8)を起動する。
- (6) K雨水回収タンクへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (7) K 4集水ピット抽出ポンプB (C321A8)を停止する。

2 9 K雨水回収タンク→中継タンクA

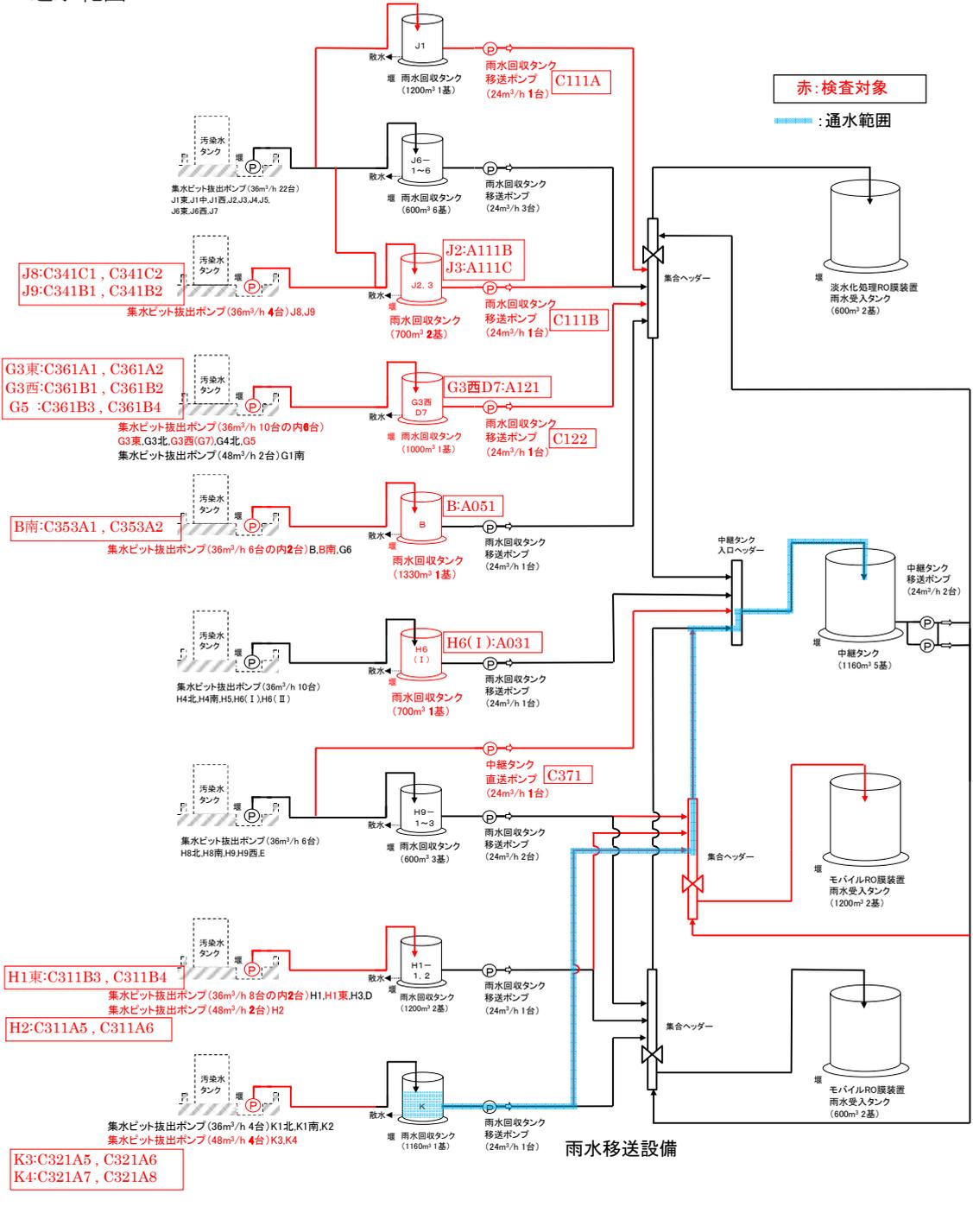
< 通水範囲 >



- (1) K雨水回収タンクから中継タンクAまでの系統構成を実施する。
- (2) K雨水回収タンク移送ポンプ(C021)を起動する。
- (3) 中継タンクAへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) K雨水回収タンク移送ポンプ(C021)を停止する。

30 K雨水回収タンク→中継タンクE

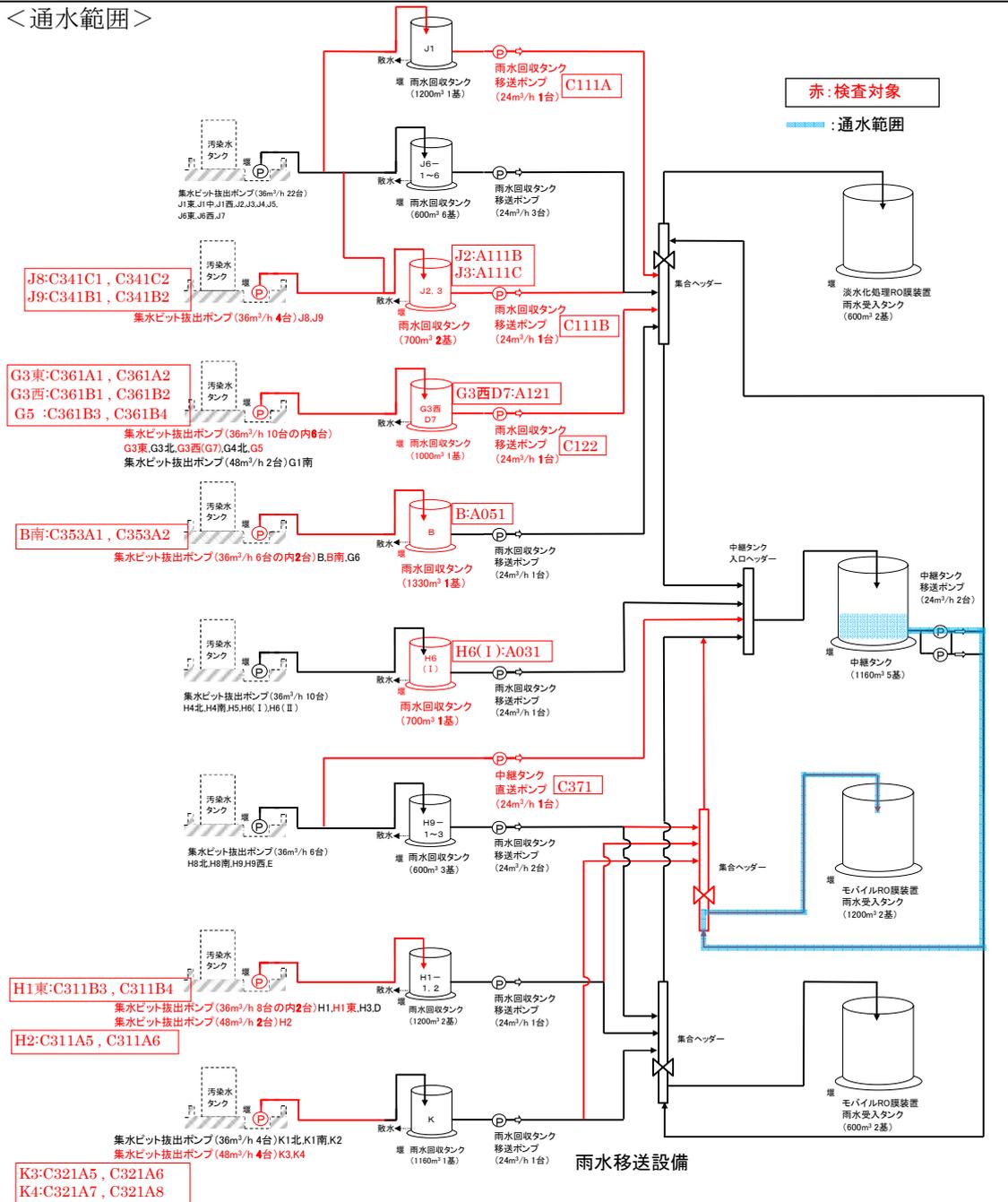
< 通水範囲 >



- (1) K雨水回収タンクから中継タンクEまでの系統構成を実施する。
- (2) K雨水回収タンク移送ポンプ(C021)を起動する。
- (3) 中継タンクEへ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) K雨水回収タンク移送ポンプ(C021)を停止する。

3 1 中継タンク A→モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³)

< 通水範囲 >



- (1) 中継タンク AからモバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³) までの系統構成を実施する。
- (2) 中継タンク移送ポンプ A (C151A) を起動する。
- (3) モバイルRO膜装置雨水受入タンク A (1200m³) へ通水でき、かつ、漏えいのないことを確認する。
- (4) 中継タンク移送ポンプ A (C151A) を停止する。